

1. 施策の概要

施策シート【09_03】

健康福祉部

施策名称		高齢者の社会参加の促進			
総合計画体系	基本目標等	2.健やかに、生きがいを持って暮らせるまち			
	施策目標等	9.高齢者が地域でいきいきと暮らせるまち			
めざす姿（主観的満足度）		高齢者が地域でいきいきと暮らせる環境が整っている			
概要		高齢者の技能・経験を活かせる活躍の場の確保など社会参加を促進する。			
計画期間 中の 実施予定 時期	R6年度				
	1. 自主グループの活動支援 2. 社会参加の支援				
	R7年度				
	1. 自主グループの活動支援 ○自主グループの登録制度の創設				
	R8年度				
	R9年度				

2. 市民満足度、取り組み実績および施策指標の分析

市民満足度の分析

【満足度26.3%】

- ・年代別では、最も高いのが20歳台で47.8%、最も低いのが70歳台で22.2%である。
- ・昨年度と比較すると全体で12.5ポイント減少した。

取り組み実績および施策指標の分析

【取り組み実績】

- ・施策の進捗としては、概ね達成できている。

【施策指標】

- ・指標については、「ひらかた生き生きマイレージ（介護予防ポイント事業）による活動件数」が目標を達成している。「高齢者居場所など通いの場の参加率」は未達成である。

3. 具体的な取り組みの進捗と施策指標の実績

施策シート【09_03】－ 具体的な取り組み

健康福祉部

施策名称		高齢者の社会参加の促進			
1. 自主グループの活動支援					
取り組みの内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	担当課
健康無関心層をターゲットとして、趣味性の高いプログラムで「社会参加」のきっかけを提供。自主グループや支援組織と連携し、活動継続ができる仕組みを構築。	自主グループの登録・活動支援体制の構築に向けた検討（モデル実施）	自主グループの登録制度の創設により、継続的な活動を支援	継続	継続	健康づくり課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	備考
令和6年度に新たに設置（9か所）した「街かど健康ステーション」にて、自主グループ活動の支援や活躍の場の提供を行った。活躍の場の提供としては、自主グループ活動の一環として、街かどデイハウスプログラムの講師として登壇できる場を設けるなどした。今後、市民周知をさらに行い、社会参加できる地域づくりを行っていく。	自主グループの活躍の場の提供や支援を受けられるように、街かど健康ステーションとの連携ができるよう情報提供を行った。	自主グループの登録数は微増であるが、登録した方に対する定期確認を行うことでグループ活動の継続支援を行えている。			
年度ごとの達成状況	○	○			

施策シート【09_03】－ 施策指標

健康福祉部

施策名称	高齢者の社会参加の促進
------	-------------

指標名	指標の説明	R6	R7	R8	R9	単位	担当課	関連する取り組み等
高齢者居場所など集いの場の参加率【再掲】	活動実績を求める高齢者居場所と健康ステーション（街かどデイハウス事業）（仮）の延べ参加者／高齢者人口	8.0	8.0	8.0	8.0	%	健康づくり課	1. 自主グループの活動支援
各年度の実績		6.87	7.53			%	備考	
【施策指標の分析 R6】 新型コロナ等感染症予防対策による地域活動の自粛から復活しはじめた時期のため、目標値には達成しなかったが、令和5年度よりくわんかウォークスやひらかた夢かなえるエクササイズや、趣味活動を行う新たな自主グループが増加（41か所）したことで、通いの場の参加率が0.87%増加した。								
【施策指標の分析 R7】 令和7年度の実績値は、見込値であり、6月中旬頃に確定する見込みである。令和7年度は市で登録する高齢者居場所が新規登録9件、廃止3件と増加傾向にあり、また、街かど健康ステーションが活動を支援する趣味活動を行う自主グループが4グループ増加したことから、参加機会の拡大が見込まれる。一方で担い手不足等の課題もあることから、参加率は概ね維持または緩やかな変動にとどまる可能性がある。今後も引き続き、運営支援等により参加率の安定的な向上を図る必要がある。								

施策名称	高齢者の社会参加の促進
------	-------------

2. 社会参加の支援

取り組みの内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	担当課
ひらかた生き生きマイレージについて、新任研修を開催するとともに、研修修了後のボランティア活動を希望するサポーター登録者について、活動の場とのマッチングを行い、活動を支援。また、すでに活動している者への現任研修を開催しながらモチベーションの維持に努める。	・新任研修を開催 ・研修修了後のボランティア活動を希望するサポーター登録者について、活動の場とのマッチング及び活動の支援	継続	継続	継続	健康づくり課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	備考
・ 新任研修の参加者増加に向けた取り組みとして、介護予防事業とあわせた周知を図っていく。 ・ 現任研修では、サポーター自身が健康で継続した活動ができるように、介護予防に関する情報提供の方法を検討していく。	・ 新任研修（3回）：参加者数23名 ・ 現任研修（3回）：参加者数168名	・ 新任研修（3回）：参加者数39名 ・ 現任研修（3回）：参加者数146名			
年度ごとの達成状況	◎	◎			

指標名	指標の説明	R6	R7	R8	R9	単位	担当課	関連する取り組み等
ひらかた生き生きマイレージ（介護予防ポイント事業）による活動件数	ひらかた生き生きマイレージ事業において65歳以上の高齢者が介護保険施設等でサポーター活動を行う件数	1,000	1,500	2,250	3,375	件	健康づくり課	2. 社会参加の支援
各年度の実績		1,296	1,698			件	備考	
【施策指標の分析 R6】 登録施設及びサポーター活動者の数の増加に伴い、活動件数が前年度（826件）の約1.5倍増加した。								
【施策指標の分析 R7】 登録サポーターの活動件数は1,698件である。新任者研修参加者は増加している一方、現任者研修参加者は減少している。また、新任・現任ともに研修参加にとどまり、実際の活動に結び付いていないケースが少なくない点が課題である。								

4. 取組満足度と関心・期待度・ニーズの4象限マトリクス分析

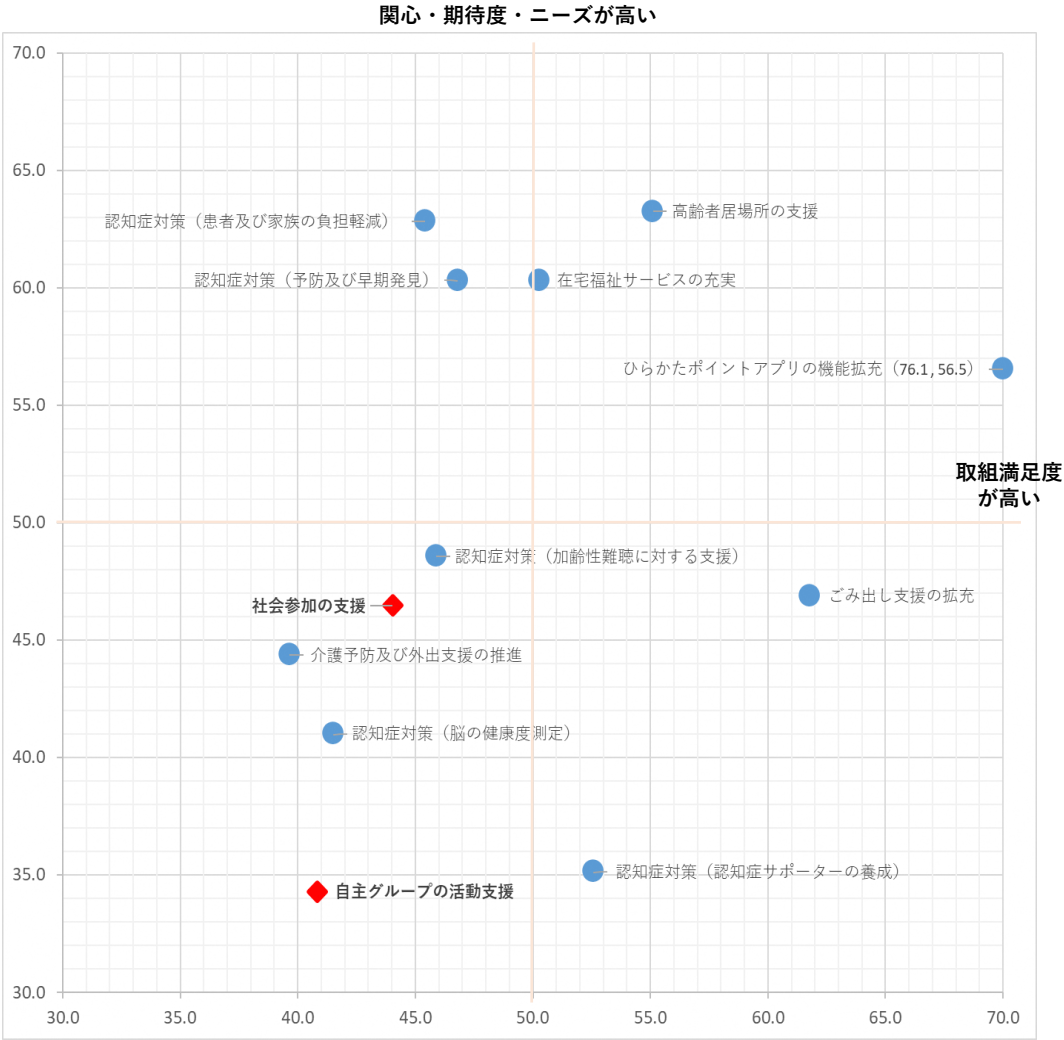
高齢者が地域でいきいきと暮らせる
09_03 高齢者の社会参加の促進

施策満足度		
満足	不満足	どちらとも いえない わからない
26.3%	19.8%	54.0%
「決め手となった取り組みはない」と 回答した人		
19.5%		

※回答数／全体数1,762

※満足の定義は、「感じている」「やや感じている」を選択した人で、
不満足の定義は、「あまり感じていない」「感じていない」を選択した人

※各施策における取組満足度や関心・期待度・ニーズを分析するものであり、異なる施策間での比較を行うものではありません。



目指すべき姿
（施策満足度）『高齢者が地域でいきいきと暮らせる』に紐づく全取り組み⇒
青丸●

上記のうち施策シート『09_03 高齢者の社会参加の促進』に紐づく取り組み⇒
赤ダイヤ◆

施策の分析

- ・「2. 社会参加の支援」の取組満足度は低いものの、関心・期待度・ニーズは平均的である。
- ・「1. 自主グループの活動支援」の関心・期待度・ニーズと取組満足度はともに低い。

5. 評価を踏まえた今後の方向性

今後の方向性

- ・施策全体の方向性としては、介護予防拠点を全ての日常生活圏域で対応できるよう配置し、気軽に介護予防に取り組めるよう環境を整えるとともに、高齢者の短時間の就労を支援する「健康・生きがい就労トライアル事業」に、より多くの方に参加いただけるよう、事業の更なる周知啓発を進めることで、効果的な介護予防を推進する。
- ・高齢者の社会参加の促進に向け、ひらかた生き生きマイレージ（介護予防ポイント事業）のサポーター活動に関連する取組や、短時間の就労的活動を支援する「健康・生きがい就労トライアル事業」の更なる周知啓発により、効果的な介護予防の推進につなげる。

1. 施策の概要

施策シート【10_01】

福祉事務所

施策名称		社会参加の促進に向けた福祉サービスの充実				
総合計画体系	基本目標等	2.健やかに、生きがいを持って暮らせるまち				
	施策目標等	10.障害者が自立し、社会参加ができるまち				
めざす姿（主観的満足度）		障害者が地域でいきいきと暮らせる環境が整っている				
概要		障害者の社会参加の促進に向けた福祉サービスの充実を図る。				
計画期間 中の 実施予定 時期	R6年度	R7年度			R8年度	R9年度
	1. グループホームにおける重度障害者受入促進					
	2. くすの木園の跡地活用					
3. 地域生活支援のための体制整備						
4. 意思疎通支援の拡充						
5. 障害者歯科診療日数の拡充						
6. 補聴器購入補助の拡充						
○22歳到達年度末までの軽度難聴者（児）に対して補聴器等の扶助を実施						
3. 地域生活支援のための体制整備						
○体験の機会・場についての整備及び拠点コーディネーターの設置						
3. 地域生活支援のための体制整備						
○体験の機会・場のモデル事業を開始						
7.人工内耳音声信号装置等にかかる費用助成の拡充						
○18歳から22歳到達年度末まで対象を拡充						

2. 市民満足度、取り組み実績および施策指標の分析

市民満足度の分析

【満足度16.5%】

- ・年代別では、最も高いのが20歳台で34.8%、最も低いのが70歳台で13.7%である。
- ・昨年度と比較すると全体では、6.8ポイント減少したものの、若者世代（24歳以下）では1.7ポイント上昇した。

取り組み実績および施策指標の分析

【取り組み実績】

- ・施策の進捗としては、概ね達成できている。

【施策指標】

- ・指標については、「施設入所者の地域生活への移行」、「障害者歯科診療件数」、「引継ぎ（紹介）が可能な歯科医療機関数」は目標を達成している。
- ・「障害者のグループホーム利用者数」は、未達成だが、目標には近づいている。
- ・「整備済の機能の数」、「移動支援利用時間」、「コミュニケーション支援員派遣数」、「18歳以上で補聴器購入費用補助の利用を申請した人数」は未達成である。

3. 具体的な取り組みの進捗と施策指標の実績

施策シート【10_01】ー 具体的な取り組み

福祉事務所

施策名称	社会参加の促進に向けた福祉サービスの充実
------	----------------------

1. グループホームにおける重度障害者受入促進

取り組みの内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	担当課
グループホームにおける重度障害者の受入を促進するため、重度障害者の受け入れを評価する補助金の交付。また事業所の人手不足解消のため、世話人養成研修、無料職業紹介所事業などを実施。	・グループホーム重度障害者対応改修補助金の見直し ・世話人養成研修 ・無料職業紹介所事業を実施	・見直し後の補助金の交付 ・世話人養成研修 ・無料職業紹介所事業を実施	継続	継続	障害企画課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	備考
重度障害者の受け入れにかかる補助金の申請や無料職業紹介所への相談については、想定ほどの実績がなかった。引き続き制度の周知を図っていく。	重度障害者の受け入れにかかる補助金の申請や無料職業紹介所への相談については、想定ほどの実績がなかった。	重度障害者の受け入れにかかる補助金の申請や無料職業紹介所への相談については、想定ほどの実績がなかった。			
年度ごとの達成状況	○	○			

指標名	指標の説明	R6	R7	R8	R9	単位	担当課	関連する取り組み等
障害者のグループホーム利用者数	障害者が地域で共同生活するグループホームの実利用者数（一月あたり）	575	621	671	731	人	障害企画課	1. グループホームにおける重度障害者受入促進（枚方市障害福祉計画（第7期））
各年度の実績		526	576			人	備考	
【施策指標の分析 R6】 目標値とほぼ同数の実績値となった。								
【施策指標の分析 R7】 利用者数は増加したが目標値は下回った。								

施策シート【10_01】－ 具体的な取り組み

福祉事務所

施策名称	社会参加の促進に向けた福祉サービスの充実
------	----------------------

2. くすの木園の跡地活用

取り組みの内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	担当課
重度障害者グループホーム（地域生活支援拠点併設）の設置	敷地の土壌調査等を実施	運営法人の決定に向けた取り組み	事業所開設に向けた調整・建設工事	運用開始	障害企画課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	備考
運営法人の決定や開設に向けた各種調整を行い、予定通りの運用開始を目指す。	土壌調査の結果、施設整備を阻害する要因は見つからなかった。	運営法人を決定した。			
年度ごとの達成状況	◎	◎			

※関連指標なし

施策名称	社会参加の促進に向けた福祉サービスの充実
------	----------------------

3. 地域生活支援のための体制整備

取り組みの内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	担当課
障害者の重度化・高齢化や「親亡き後」に備えるとともに、障害者等の生活を地域全体で支える体制を構築するため、地域の実情に応じて必要な機能を整備。中心的な役割を担うコーディネーター(以下、「拠点コーディネーター」という)の配置。	・緊急時の受け入れ・対応、体験の機会・場についての整備 ・整備済の機能について、継続的に検証・検討	・体験の機会・場についての整備及び拠点コーディネーターの設置 ・整備済の機能について、継続的に検証・検討	・拠点コーディネーターの設置 ・整備済の機能について、継続的に検証・検討 ・体験の機会・場のモデル事業を開始	・整備済の機能について、継続的に検証・検討 ・モデル事業を継続、検証のうえ、11年度の本格実施に向け、内容を検討	障害企画課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	備考
地域生活支援拠点等の5つの機能の整備を進める中、コーディネーターについてはより柔軟に手法等を検討する。	緊急時の受け入れ・対応は整備済み。体験の機会・場は引き続き検討	・体験の機会・場についての整備及び拠点コーディネーターを配置するため、次年度当初予算化を行った。			
年度ごとの達成状況	○	○			

指標名	指標の説明	R6	R7	R8	R9	単位	担当課	関連する取り組み等
整備済の機能の数	整備済の機能の数	4	5	5	5	機能	障害企画課	3. 障害者の地域生活支援のための体制整備
各年度の実績		4	4			機能	備考	
【施策指標の分析 R6】 目標の数値を達成した。次年度目標の整備済機能数の達成を目標に、支援体制の整備を進めていく。								
【施策指標の分析 R7】 令和8年度より居室体験事業を開始することで目標値に達する見込み。								
居室体験利用人数	居室体験事業を利用した障害者の延べ人数	—	—	6	6	人	障害企画課	3. 障害者の地域生活支援のための体制整備
各年度の実績		—	—			人	備考	
【施策指標の分析 R6】 —							令和7年度に新規設定	
【施策指標の分析 R7】 令和8年度より事業を開始する。								

施策シート[10_01]－ 具体的な取り組み

福祉事務所

施策名称	社会参加の促進に向けた福祉サービスの充実
------	----------------------

4. 意思疎通支援の拡充

取り組みの内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	担当課
コミュニケーションに困難を有する障害者が、入院する際に、現に利用している事業所の従事者をコミュニケーション支援員として派遣。	対象者要件を緩和	継続	継続	継続	障害企画課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	備考
引き続き制度の周知を図り、利用希望者が制度活用できるよう周知を行う。	対象者の要件を緩和したものの、利用実績はなかった。	目標値は下回ったが、4件の利用があった。			
年度ごとの達成状況	○	○			

指標名	指標の説明	R6	R7	R8	R9	単位	担当課	関連する取り組み等
コミュニケーション支援員派遣数	1年間のコミュニケーション支援員を派遣した対象者数	6	11	11	11	人	障害企画課	4. 意思疎通支援の拡充
各年度の実績		0	4			人	備考	
【施策指標の分析 R6】 今年度より拡充し周知を実施したが、実績が挙がるには一定の時間を要すると考えます。								
【施策指標の分析 R7】 利用実績はあったものの、目標値には至っていない。引き続き事業の周知を行う。								

施策シート【10_01】－ 具体的な取り組み

福祉事務所

施策名称	社会参加の促進に向けた福祉サービスの充実
------	----------------------

5. 障害者歯科診療日数の拡充

取り組みの内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	担当課
一般の歯科医療機関で診療が困難な障害者対象に枚方市歯科医師会が行っている歯科診療事業に対して、補助額を増額し診療日数を増やす。	同事業で一定治療後の受診者を引継ぎ(紹介) できる歯科医療機関の増加を図る	継続	継続	継続	障害企画課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	備考
引き続き制度の周知を図り、利用希望者が制度活用できるよう周知を図る。	歯科診療事業の拡充により、利用者数が増加した。	事業利用者数は前年度より若干下回ったが、目標値は上回った。			
年度ごとの達成状況	○	◎			

指標名	指標の説明	R6	R7	R8	R9	単位	担当課	関連する取り組み等
障害者歯科診療件数	障害者歯科診療事業で1年間に受診した人数	1,008	1,008	1,130	1,140	人	障害企画課	5. 障害者歯科診療日数の拡充
各年度の実績		1,039	1,120			人	備考	
【施策指標の分析 R6】 見込を上回る実績となった。引き続き制度を必要する方の利用につながるよう、制度を継続的に運用していく。								
【施策指標の分析 R7】 見込を上回る実績となった。引き続き制度を必要する方の利用につながるよう、制度を継続的に運用していく。								
引継ぎ（紹介）が可能な歯科医療機関数	同事業で一定治療後の受診者を引継ぎ（紹介）できる歯科医療機関の増加を図る	7	9	11	13	か所	障害企画課	5. 障害者歯科診療日数の拡充
各年度の実績		5	9			か所	備考	
【施策指標の分析 R6】 見込数値を達成することはできなかった。次年度以降も引継ぎ（紹介）可能な歯科医療機関の増加を図っていく。								
【施策指標の分析 R7】 見込数値を達成した。次年度以降も引継ぎ（紹介）可能な歯科医療機関の増加を図っていく。								

施策シート【10_01】－ 具体的な取り組み

福祉事務所

施策名称	社会参加の促進に向けた福祉サービスの充実
------	----------------------

6. 補聴器購入補助の拡充

取り組みの内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	担当課
身体障害者手帳の交付対象とならない軽度難聴児に対する補聴器購入補助について、対象者を現在の18歳未満から22歳到達年度末まで拡充。	22歳到達年度末までの軽度難聴者（児）に対して補聴器等の扶助を実施	継続	継続	継続	障害企画課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	備考
今年度より対象者の拡充し周知を実施したが、実績が挙がるには一定の時間を要すると考える。引き続き利用希望者が制度活用できるよう、周知を行う。	対象者の拡大を行ったものの、制度の利用には至らなかった。	拡充後の対象者の制度利用があった。引き続き利用希望者が制度活用できるよう、周知を行う。			
年度ごとの達成状況	○	○			

指標名	指標の説明	R6	R7	R8	R9	単位	担当課	関連する取り組み等
18歳以上で補聴器購入費用補助の利用を申請した人数	身体障害者手帳の交付対象とならない軽度・中度難聴障害がある若者で補聴器等を申請した人数。	5	5	5	5	人	障害企画課	6. 補聴器購入補助の拡充
各年度の実績		0	2			人	備考	
【施策指標の分析 R6】 今年度より拡充し周知を実施したが、実績が挙がるには一定の時間を要すると考える。								
【施策指標の分析 R7】 見込数値を達成することはできなかった。次年度以降も引継ぎ制度の周知を図る。							令和7年度に新規設定	

施策シート【10_01】－ 具体的な取り組み

福祉事務所

施策名称	社会参加の促進に向けた福祉サービスの充実
------	----------------------

7.人工内耳音声信号装置等にかかる費用助成の拡充

取り組みの内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	担当課
高度難聴児に対する人工内耳音声装置等にかかる費用の助成について、対象者を若者世代（22歳到達年度まで）に拡充	18歳までの高度難聴児を対象に実施	対象年齢の拡充を検討	18歳から22歳到達年度末まで対象を拡充	継続	障害企画課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	備考
令和8年度より対象者を拡充した。今後利用希望者が制度活用できるよう、周知を行う。	—	次年度より22歳到達年度末まで対象を拡充することを決定した。			令和7年度に新規設定
年度ごとの達成状況		◎			

指標名	指標の説明	R6	R7	R8	R9	単位	担当課	関連する取り組み等
人工内耳音声信号装置等助成件数	人工内耳装置等にかかる費用を助成した人数	—	—	11	13	人	障害企画課	7.人工内耳音声信号装置等にかかる費用助成の拡充
各年度の実績		—	—			人	備考	
【施策指標の分析 R6】 —								
【施策指標の分析 R7】 —							令和7年度に新規設定	

</

4. 取組満足度と関心・期待度・ニーズの4象限マトリクス分析

関心・期待度・ニーズが高い

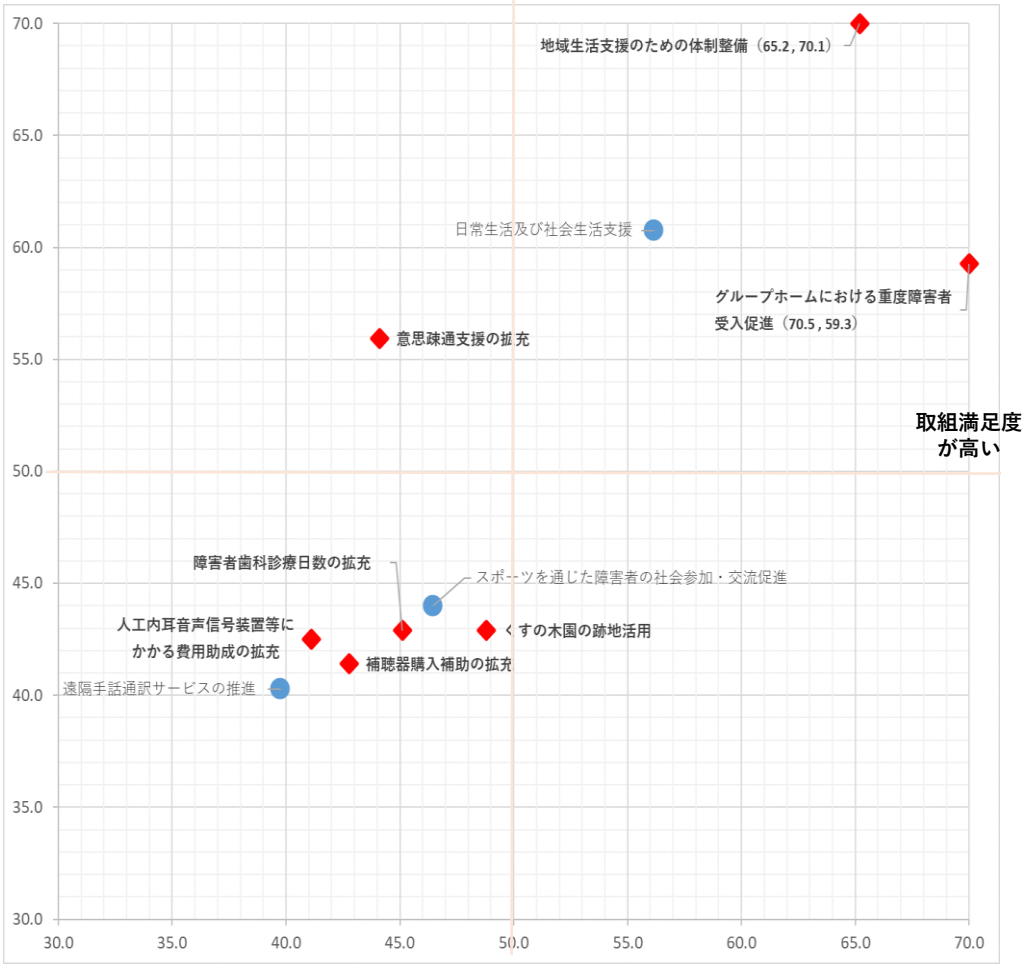
障害者が地域でいきいきと暮らせる
10_01 社会参加の促進に向けた
福祉サービスの充実

施策満足度		
満足	不満足	どちらとも いえない わからない
16.5%	15.0%	68.6%
「決め手となった取り組みはない」と 回答した人		
51.5%		

※回答数／全体数1,762

※満足の定義は、「感じている」「やや感
じている」を選択した人
不満足の定義は、「あまり感じていな
い」「感じていない」を選択した人

※各施策における取組満足度や関心・期待度・
ニーズを分析するものであり、異なる施策
間での比較を行うものではありません。



目指すべき姿
(施策満足
度)『障害者
が地域でいき
いきと暮らせ
る』に紐づく
全取り組み⇒
青丸●

上記のうち施
策シート
『10_01 社
会参加の促進
に向けた福祉
サービスの充
実』に紐づく
取り組み⇒赤
ダイヤ◆

施策の分析

- ・「1. グループホームにおける重度障害者受入促進」、「3. 地域生活支援のための体制整備」の関心・期待度・ニーズと取組満足度はともに高い。
- ・「2. くすの木園の跡地活用」、「5. 障害者歯科診療日数の拡充」の取組満足度は平均的であるが、関心・期待度・ニーズは低い。
- ・「4. 意思疎通支援の拡充」の取組満足度は低いものの、関心・期待度・ニーズは高い。
- ・「6. 補聴器購入補助の拡充」、「7. 人工内耳音声信号装置等にかかる費用助成の拡充」の関心・期待度・ニーズと取組満足度はともに低い。

5. 評価を踏まえた今後の方向性

今後の方向性

- ・施策全体の方向性としては、障害者の社会参加の促進に向けた支援制度のさらなる周知を行う必要がある。また、重度障害者の地域生活の拠点であるグループホームでの受け入れについては、より受け入れが進むよう、補助制度の周知を図るとともに、くすの木園跡地における施設整備について着実に進めていく。
- ・「3. 地域生活支援のための体制整備」については、障害者が地域で自立した生活を送れるよう支援するため、国が市町村に対し整備を求めている「障害者が地域での生活を試行的に体験できる機会や場」について、新たに場の整備や拠点コーディネーター等の配置を行う障害者居室体験事業として実施する。
- ・「4. 意思疎通支援の拡充」について、必要となる方へ制度利用できるよう、さらなる周知を行う。
- ・令和8年度より新たに実施する「7. 人工内耳音声信号装置等にかかる費用助成の拡充」については、18歳から22歳到達年度末までに対象を拡充するとともに、制度の周知を行い、利用促進を図る。

6. 施策評価員による評価【外部評価】

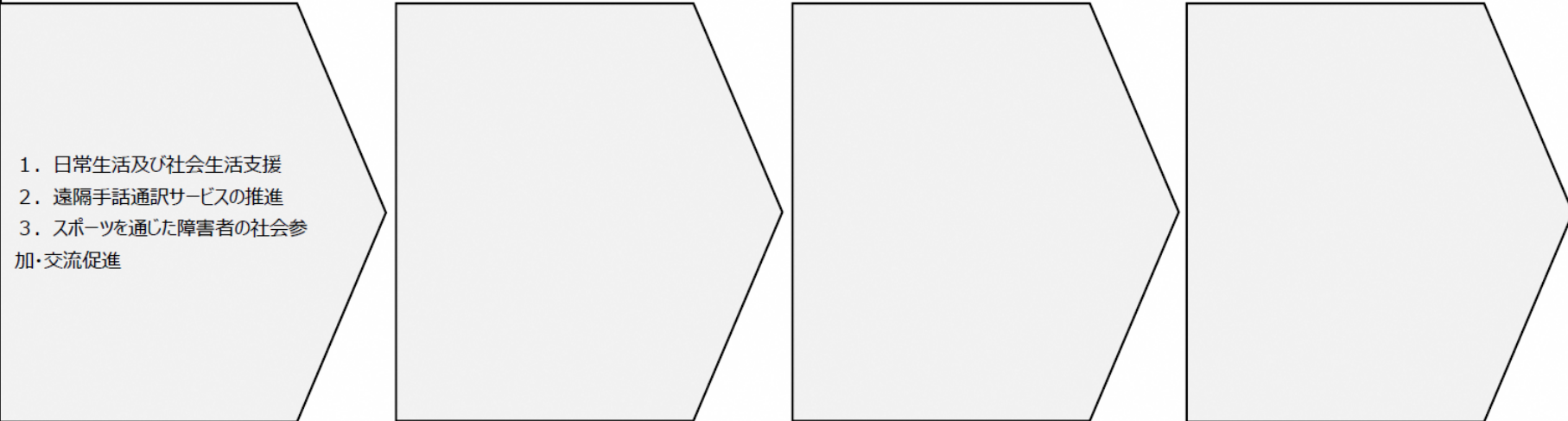
施策評価員による評価

- ・市民全体、枚方市の社会経済活動全体のユビキタス化、ユニバーサルデザイン化のような視点で、施策を整理してはどうか。
- ・障害者の「社会参加の促進」は福祉サービスの充実に加え、他の関連施策にも影響するため、障害者が他の市民との接点を持てるような機会や場を意図的につくり継続することが有効ではないか。
- ・「どちらともいえない・わからない」「決め手となった取り組みはない」がともに上位であり、施策が市民に届いておらず、周知方法を根本的に検討すべきではないか。
- ・補助制度等の周知をさらに進める必要があるのではないか。社会生活ではコミュニケーションのサポートは重要で対応も改善してさらに進めてほしい。
- ・現場の声などをもとにした施策成果等の分析も必要だと考える。

1. 施策の概要

施策シート【10_02】

福祉事務所

施策名称		障害への理解促進、地域との交流の場の提供			
総合計画体系	基本目標等	2.健やかに、生きがいを持って暮らせるまち			
	施策目標等	10.障害者が自立し、社会参加ができるまち			
めざす姿（主観的満足度）		障害者が地域でいきいきと暮らせる環境が整っている			
概要		障害者への理解促進や地域との交流の場の提供を図る。			
計画期間 中の 実施予定 時期	R6年度				

2. 市民満足度、取り組み実績および施策指標の分析

市民満足度の分析

【満足度16.5%】

- ・年代別では、最も高いのが20歳台で34.8%、最も低いのが70歳台で13.7%である。
- ・昨年度と比較すると全体では、6.8ポイント減少したものの、若者世代（24歳以下）では1.7ポイント上昇した。

取り組み実績および施策指標の分析

【取り組み実績】

- ・施策の進捗としては、概ね達成できている。

【施策指標】

- ・指標については「遠隔手話通訳サービスの利用件数」は未達成だが、目標には近づいている。「地域活動支援センター事業の利用者数」、「スポーツ講習会の参加人数」は未達成であり、要因の分析と目標達成に向けた効果的な取り組みが求められる。

3. 具体的な取り組みの進捗と施策指標の実績

施策シート【10_02】－ 具体的な取り組み

福祉事務所

施策名称	障害への理解促進、地域との交流の場の提供
------	----------------------

1. 日常生活及び社会生活支援

取り組みの内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	担当課
障害者が地域において自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、創作的活動又は生産活動の機会を提供。障害者の地域生活に必要な相談や情報提供の実施。	障害者の地域生活に必要な相談や情報提供を実施	継続	継続	継続	障害企画課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	備考
新型コロナ過以降利用者の増加は鈍化傾向。引き続き施策を継続的に実施する。	障害者の地域生活に必要な相談や情報提供を実施した。	障害者の地域生活に必要な相談や情報提供を実施した。			
年度ごとの達成状況	○	○			

指標名	指標の説明	R6	R7	R8	R9	単位	担当課	関連する取り組み等
地域活動支援センター事業の利用者数	障害者の日中活動や地域との交流の場である地域活動支援センターの利用者数	37,474	38,024	38,574	39,124	人	障害企画課	1. 日常生活及び社会生活支援
各年度の実績		36,012	34,621			人	備考	
【施策指標の分析 R6】 新型コロナの感染状況が落ち着くに伴い、利用件数が増加しつつある。								
【施策指標の分析 R7】 自立支援給付による日中活動系サービスの増加に伴い、利用件数は下降傾向にある。								

施策シート【10_02】ー 具体的な取り組み

福祉事務所

施策名称	障害への理解促進、地域との交流の場の提供
------	----------------------

2. 遠隔手話通訳サービスの推進

取り組みの内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	担当課
本庁4か所、出先4か所でタブレット端末による遠隔手話通訳を実施。また、1年中外出先等からすぐ利用できる遠隔手話通訳サービスを委託により実施。	遠隔手話通訳サービスの利用 勧奨を実施	継続	継続	継続	障害企画課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	備考
利用件数は増加しているものの周知不足により、目標値を達成することができなかった。今後、利用者の増加に向け、広報への掲載など周知活動に取り組む。	遠隔手話通訳サービスの利用を推進した。	遠隔手話通訳サービスの利用を推進した。			
年度ごとの達成状況	◎	○			

指標名	指標の説明	R6	R7	R8	R9	単位	担当課	関連する取り組み等
遠隔手話通訳サービスの利用件数	遠隔手話通訳サービスの1年間の延べ利用件数	665	684	703	722	件	障害企画課	2. 遠隔手話通訳サービスの推進
各年度の実績		643	669			件	備考	
【施策指標の分析 R6】 新型コロナの感染状況が落ち着くに伴い、利用件数が増加しつつあるものの利用件数は依然として目標値を下回っている。引き続き制度の継続的実施を行う。								
【施策指標の分析 R7】 利用者登録は、増加傾向にあるものの、目標値を下回る結果となりました。この状況を踏まえ、要因の分析を行うとともに引き続き制度の継続的実施と利用促進を図ります。								

施策シート【10_02】－ 具体的な取り組み

福祉事務所

施策名称	障害への理解促進、地域との交流の場の提供
------	----------------------

3. スポーツを通じた障害者の社会参加・交流促進

取り組みの内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	担当課
e スポーツやウィルチェアスポーツの障害者社会参加促進事業スポーツ講習会の実施。	障害者がe スポーツやウィルチェアスポーツ等に親しんでもらうための講習会を実施	継続	継続	継続	障害企画課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	備考
デジタルサイネージ等、様々な方法で周知を行った。目標値を下回る参加者となったが、体調不良などによる当日キャンセルによるもの。申込についてはいずれの回も定員を上回っており、引き続き周知方法を工夫しながら、広く参加を呼び掛けていく。	障害者がe スポーツやウィルチェアスポーツ等に親しんでもらうための講習会を実施した。	障害者がe スポーツやウィルチェアスポーツ等に親しんでもらうための講習会を実施した。			
年度ごとの達成状況	◎	○			

指標名	指標の説明	R6	R7	R8	R9	単位	担当課	関連する取り組み等
スポーツ講習会の参加人数	スポーツ講習会の1年間の延べ参加者数	60	60	60	60	人	障害企画課	3. スポーツを通じた障害者の社会参加・交流促進
各年度の実績		60	40			人	備考	
【施策指標の分析 R6】 デジタルサイネージ等、様々な方法で周知を行った結果、見込通りの参加があった。引き続き周知方法を工夫しながら、広く参加を呼び掛けていく。								
【施策指標の分析 R7】 申し込み後のキャンセルが多く出た影響もあり、結果的に見込数値を達成することはできなかった。引き続き周知方法を工夫しながら、広く参加を呼び掛けていく。								

4. 取組満足度と関心・期待度・ニーズの4象限マトリクス分析

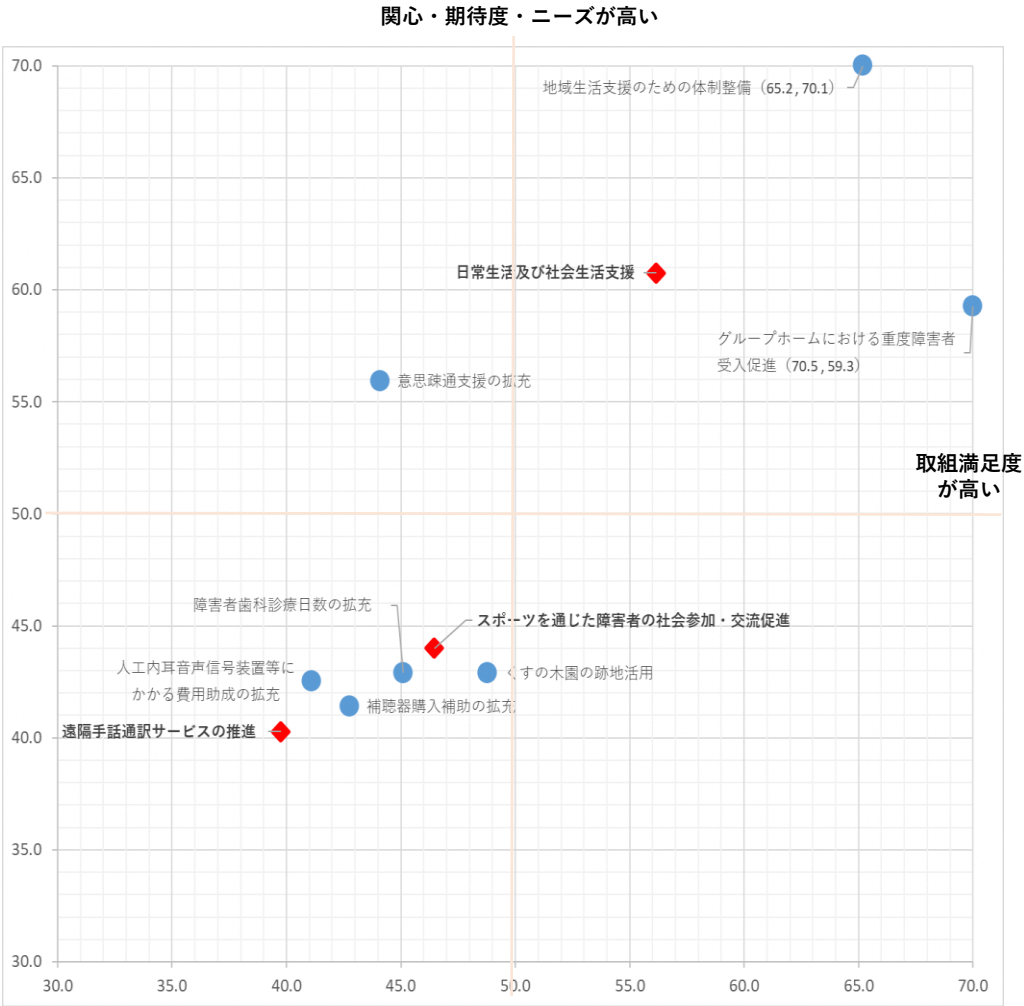
障害者が地域でいきいきと暮らせる
10_02 障害への理解促進、地域
との交流の場の提供

施策満足度		
満足	不満足	どちらとも いえない わからない
16.5%	15.0%	68.6%
「決め手となった取り組みはない」と 回答した人		
51.5%		

※回答数／全体数1,762

※満足の定義は、「感じている」「やや感
じている」を選択した人
不満足の定義は、「あまり感じていな
い」「感じていない」を選択した人

※各施策における取組満足度や関心・期待・
ニーズを分析するものであり、異なる施策
間での比較を行うものではありません。



目指すべき姿
(施策満足
度)『障害者
が地域でいき
いきと暮らせ
る』に紐づく
全取り組み⇒
青丸●

上記のうち施
策シート
『10_02 障
害への理解促
進、地域との
交流の場の提
供』に紐づく
取り組み⇒赤
ダイヤ◆

施策の分析

- ・「1. 日常生活及び社会生活支援」の関心・期待度・ニーズと取組満足度はともに高い。
- ・「2. 遠隔手話通訳サービスの推進」の関心・期待度・ニーズと取組満足度はともに低い。
- ・「3. スポーツを通じた障害者の社会参加・交流促進」の取組満足度は平均的であるものの、関心・期待度・ニーズは低い。

5. 評価を踏まえた今後の方向性

今後の方向性

- ・ 施策全体の方向性としては、障害者への理解促進や地域との交流の場の提供を図るため、対象者への必要な情報提供や制度周知を行っていく。
- ・ 障害者への理解については、交流の場を広げる必要があることから、eスポーツを通じた社会参加・交流や地域活動支援センターでの活動の周知など、積極的な情報発信を行っていく。

6. 施策評価員による評価【外部評価】

施策評価員による評価

- ・ 課題解消に向けて、その原因や理由から具体的な対応策を明らかにしていく必要があるのではないか。
- ・ 市民理解や市民との交流機会をどのようにして創り上げていくかが課題と考える。
- ・ 障害・福祉分野にとって一番の障壁は、周囲からの「無関心」と考えるため、同じ目線で楽しめる企画を行うのは有効であり、マスコミへの働きかけやSNSを通じた定期的な発信を行ってはどうか。
- ・ 地域の関係団体などへ働きかけ、健常者とともに楽しめるスポーツの普及を支援するなどにはできないか。
- ・ 交流の場の提供という市民接点型の施策でありながら「どちらともいえない・わからない」「決め手となった取り組みはない」がともに上位であり、施策が市民に届いておらず、周知方法を根本的に検討すべきではないか。
- ・ 「どちらともいえない/わからない」の比率が68.6%と他の施策と比較して高いことは、障害福祉への市民の関心の低さの表れと考える。引き続き地道な取り組みを進めてもらいたい。

1. 施策の概要

施策シート【11_01】

市長公室

施策名称		人権教育・啓発の推進			
総合計画体系	基本目標等	2.健やかに、生きがいを持って暮らせるまち			
	施策目標等	11.すべての人がお互いの人権を尊重しあうまち			
めざす姿（主観的満足度）		一人ひとりが人権を尊重し合っている			
概要		すべての市民の人権が大切にされる社会の実現に向け、人権問題を正しく理解し、一人ひとりの個性や価値観を認め合えるよう、人権教育・啓発の推進を図る。			
計画期間 中の 実施予定 時期	R6年度				
	1. 人権尊重の意識醸成 2. 性的マイノリティ支援				
	R7年度				
	1. 人権尊重の意識醸成 ○イベントを実施				
	R8年度				
	R9年度				

2. 市民満足度、取り組み実績および施策指標の分析

市民満足度の分析

【満足度21.2%】

- ・年代別では、最も高いのが19歳以下で53.8%、最も低いのが70歳台で17.5%である。
- ・昨年度と比較すると全体では、9.8ポイント減少したものの、若者世代（24歳以下）では9.4ポイント上昇した。

取り組み実績および施策指標の分析

【取り組み実績】

- ・施策の進捗としては、概ね達成できている。

【施策指標】

- ・指標については、「啓発イベント等に参加した人の満足度」は未達成であり、満足度の増加が求められる。「人権啓発イベント等の参加者数」は未達成であるものの、目標達成に近づいている。「LGBTQ+相談（電話・オンライン（チャット））利用者満足度」は目標を達成している。

3. 具体的な取り組みの進捗と施策指標の実績

施策シート【11_01】－ 具体的な取り組み

市長公室

施策名称	人権教育・啓発の推進
------	------------

1. 人権尊重の意識醸成

取り組みの内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	担当課
令和5年度に見直しをおこなった「人権尊重のまちづくり条例」の理念に基いた、市民・事業所向け啓発の実施。 また、特定非営利活動法人枚方人権まちづくり協会と連携した効果的な人権啓発の実施。	・条例理念の周知・啓発 ・市民対象の啓発イベント（講演会・映画会・講座等）を実施	条例理念に基づいた市民・事業所向け啓発イベントを実施	・継続	・継続	人権政策課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	備考
人権尊重のまちづくり条例の理念を踏まえ、市民・事業者の役割や責務など条例の趣旨等を引き続き周知・啓発していく必要がある。	・広報ひらかたやHPにより条例理念の周知・啓発を行った。 ・枚方人権まちづくり協会と連携し、講座「生きること」など、啓発のための講演を6回実施した。（参加者数 365人）	・人権週間の街頭啓発において条例理念の周知チラシを作成し啓発（配付）を行った。 ・枚方人権まちづくり協会と連携し、講座「生きること」など、啓発のための講演を6回実施した。			
年度ごとの達成状況	○	○			

施策シート【11_01】－ 施策指標

市長公室

施策名称		人権教育・啓発の推進						
指標名	指標の説明	R6	R7	R8	R9	単位	担当課	関連する取り組み等
啓発イベント等に参加した人の満足度	啓発イベント等に参加した人のアンケート結果で、満足した人の割合	90	96	96	96	%	人権政策課	1. 人権尊重の意識醸成
各年度の実績		95.29	92.1			%	備考	
【施策指標の分析 R6】目標を上回る結果で、満足した人の中でも、7割以上が5段階で最高の評価をしている。今後は実績を維持しつつ、より幅広い層が参加する啓発事業に取り組む。								
【施策指標の分析 R7】満足度の設問について、未記入のまま回答されたものが例年より多く、実績値を押し下げた。参加者数や最高評価をした参加者の割合は増加しており、実績の維持と参加者数の増加を両立する啓発事業を行っていく。								
人権啓発イベント等の参加者数	人権に関する講座など人権啓発イベント等への参加者数	630	630	630	630	人	人権政策課	1. 人権尊重の意識醸成
各年度の実績		365	449			人	備考	
【施策指標の分析 R6】計画通りに啓発事業を実施したが、12月の人権週間事業の参加者が、例年と比べ大きく減少するなど各事業において参加者数が少なかった。今後は、多くの参加者が見込める話題性と、人権啓発の意義付けの両立できるような啓発事業を検討していく。								
【施策指標の分析 R7】計画通りに啓発事業を実施したが、各事業において参加者数の伸びが少なかった。今後は、多くの参加者が見込める話題性と、人権啓発の意義付けの両立できる啓発事業に取り組んでいく。								

施策シート【11_01】－ 具体的な取り組み

市長公室

施策名称	人権教育・啓発の推進
------	------------

2. 性的マイノリティ支援

取り組みの内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	担当課
性の多様性の理解促進の一環として、「LGBTQ+電話相談」、「コミュニティスペース」のほか、市民向け啓発事業の実施。	相談者の利便性の向上を図るため、現行のLGBTQ+電話相談に加え若年の相談者にも利用しやすいオンライン（チャット）相談を開始	継続	継続	継続	人権政策課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	備考
コミュニティスペース、チャット相談の利用者についてはまだ限られているため、今後より効果的な周知を図る必要がある。	LGBTQ+の相談支援を拡充し、より利用しやすい体制づくりに取り組み、当事者に寄り添った支援を推進してきた。	LGBTQ+相談支援について利用しやすい体制を継続し、当事者に寄り添った支援を推進してきた。 YouTubeに動画をアップロードし、周知を図った。			
年度ごとの達成状況	○	○			

指標名	指標の説明	R6	R7	R8	R9	単位	担当課	関連する取り組み等
LGBTQ+相談（電話・オンライン（チャット））利用者満足度	LGBTQ+相談（電話・オンライン（チャット））を利用した人の事後アンケートで「相談してよかった」と回答した人の割合	90	90	90	90	%	人権政策課	2. 性的マイノリティ支援
各年度の実績		80	100			%	備考	
【施策指標の分析 R6】電話相談の利用者は減少傾向であるが一定の需要がある。 R6.11開始のチャット相談の利用者についてはまだ限られているため、今後より効果的な周知を図る必要がある。（R7年度より指標変更）								
【施策指標の分析 R7】利用者満足度は高いが、電話相談およびチャット相談の利用者数が少ない。今後より効果的な周知を図る必要がある。								

4. 取組満足度と関心・期待度・ニーズの4象限マトリクス分析

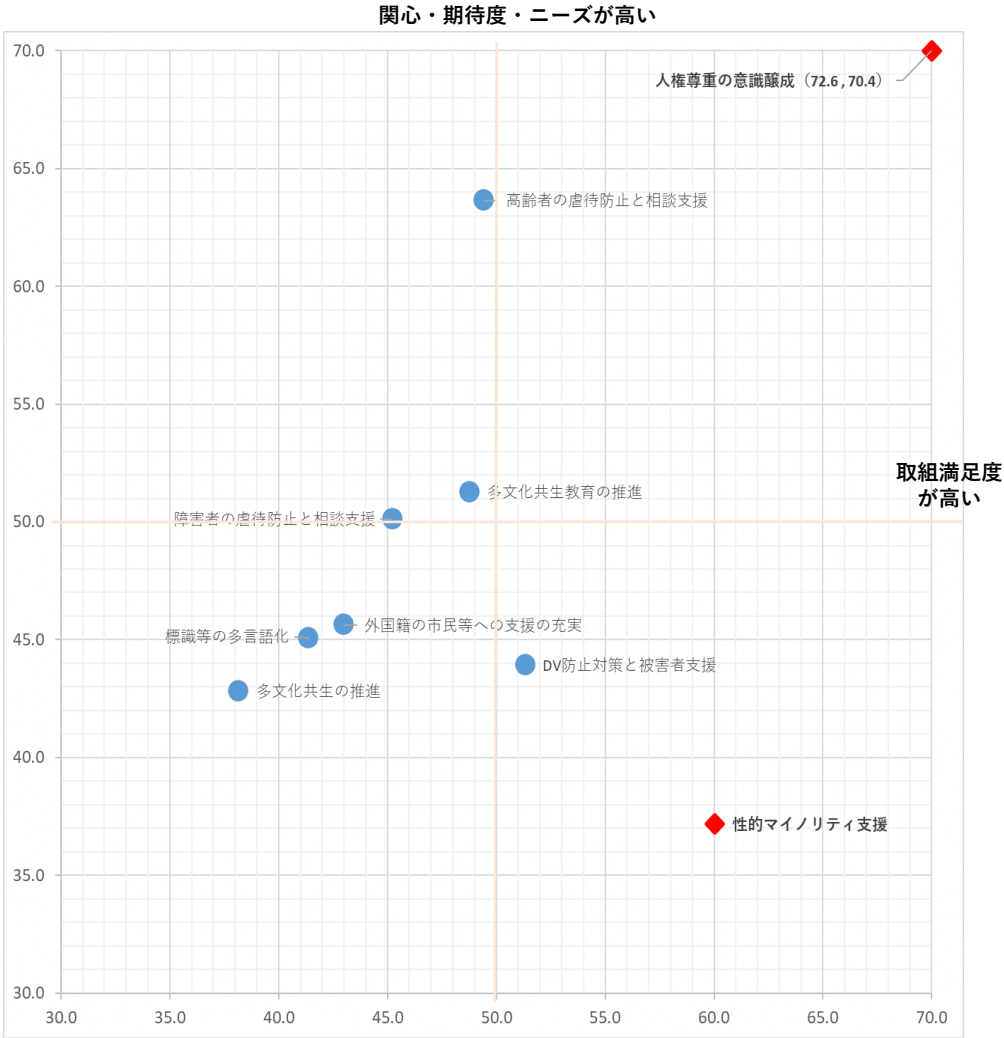
一人ひとりが人権を尊重
11_01 人権教育・啓発の推進

施策満足度		
満足	不満足	どちらとも いえない わからない
21.2%	12.7%	66.1%
「決め手となった取り組みはない」と 回答した人		
47.9%		

※回答数／全体数1,762

※満足の定義は、「感じている」「やや感じている」を選択した人で、
不満足の定義は、「あまり感じていない」「感じていない」を選択した人

※各施策における取組満足度や関心・期待・ニーズを分析するものであり、異なる施策間での比較を行うものではありません。



目指すべき姿
(施策満足度)『一人ひとりが人権を尊重』に紐づく全取り組み
⇒青丸●

上記のうち施策シート『11_01 人権教育・啓発の推進』に紐づく取り組み
⇒赤ダイヤ◆

施策の分析

- 「1. 人権尊重の意識醸成」の関心・期待度・ニーズと取組満足度はともに高い。
- 「2. 性的マイノリティ支援」の取組満足度は高いものの、関心・期待度・ニーズは低い。

5. 評価を踏まえた今後の方向性

今後の方向性

- ・施策全体の方向性としては、枚方市人権尊重のまちづくり条例の理念を各主体に周知、啓発するとともに、枚方市人権尊重のまちづくり基本計画について、中間年である令和 8 年度に社会情勢の変化等に対応した中間見直しを行う。
- ・「2. 性的マイノリティ支援」について、コミュニティスペース、チャット相談の利用者について今後より効果的な周知を図る。

1. 施策の概要

施策シート【11_02】

市長公室、健康福祉部、福祉事務所

施策名称		人権侵害への支援の充実			
総合計画体系	基本目標等	2.健やかに、生きがいを持って暮らせるまち			
	施策目標等	11.すべての人がお互いの人権を尊重しあうまち			
めざす姿（主観的満足度）		一人ひとりが人権を尊重し合っている			
概要		配偶者等からの暴力（DV）や、高齢者、障害者などへのさまざまな人権侵害に対し、関係機関が連携しながら支援の充実を図る。			
計画期間 中の 実施予定 時期	R6年度				
		1. DV防止対策と被害者支援 2. 障害者の虐待防止と相談支援 3. 高齢者の虐待防止と相談支援			
	R7年度				
	R8年度				
	R9年度				

2. 市民満足度、取り組み実績および施策指標の分析

市民満足度の分析

【満足度21.2%】

- ・年代別では、最も高いのが19歳以下で53.8%、最も低いのが70歳台で17.5%である。
- ・昨年度と比較すると全体では、9.8ポイント減少したものの、若者世代（24歳以下）では9.4ポイント上昇した。

取り組み実績および施策指標の分析

【取り組み実績】

- ・施策の進捗としては、すべての取り組みが計画通りに進めることができている。

【施策指標】

- ・指標については、「DV被害に関する相談件数」については、未達成だが、目標には近づいている。
- ・「DVに関する各種証明発行件数」、「障害者虐待に関する相談件数」、「障害者虐待に関する相談の結果、解決・支援につながった割合」、「高齢者虐待に関する相談件数」、「高齢者虐待に関する相談の結果、解決・支援につながった割合」は目標を達成している。

3. 具体的な取り組みの進捗と施策指標の実績

施策シート【11_02】－ 具体的な取り組み

市長公室、健康福祉部、福祉事務所

施策名称	人権侵害への支援の充実
------	-------------

1. DV防止対策と被害者支援

取り組みの内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	担当課
配偶者暴力相談支援センター「ひらかたDV相談室」におけるDV相談及び、DV防止に向けた啓発事業等の実施。	・DV被害者の相談対応 ・各種証明発行 ・保護命令申立支援 ・一時保護移送 ・DV防止啓発イベント等の実施 ・小中学校へのDV予防教育プログラムを実施	継続	継続	継続	人権政策課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	備考
DV相談では児童虐待や生活困窮など、関係機関と連携が必要な相談も多いためより連携を強化していく。DV防止に向けた啓発については、引き続き、若年層に向けた効果的な啓発に努める。	枚方市配偶者暴力相談支援センター「ひらかたDV相談室」において、電話相談、面接相談を実施した。また、デートDV防止案内カードを市内高等学校の希望校に配布し、デートDV防止ハンドブック「あなたと私の心とからだを大切に」を市内中学校の希望校に配布した。小中学校に「DV予防教育プログラム」を周知し希望校で実施した。	枚方市配偶者暴力相談支援センター「ひらかたDV相談室」において、電話相談、面接相談を実施した。また、デートDV防止案内カードを市内大学及び高等学校の希望校に配布し、デートDV防止ハンドブック「あなたと私の心とからだを大切に」を市内中学校の希望校に配布した。小中学校に「DV予防教育プログラム」を周知し希望校で実施した。			
年度ごとの達成状況	◎	◎			

指標名	指標の説明	R6	R7	R8	R9	単位	担当課	関連する取り組み等
DV被害に関する相談件数	配偶者暴力相談支援センター「ひらかたDV相談室」におけるDV被害に関する相談件数	1,800	1,850	1,900	1,950	件	人権政策課	1. DV防止対策と被害者支援
各年度の実績		1,264	1616			件	備考	
【施策指標の分析 R6】R5年度までのコロナ禍においては電話による相談が35%増加、面接相談も増加傾向であり、高止まりが続いていたが、R6年度においては大幅に相談件数が減少した。								
【施策指標の分析 R7】電話相談、面接相談ともにR6年度と比較して増加した。特に面接相談については一時保護の件数も増えたため、大幅な増加が見られた。								
DVに関する各種証明発行件数	配偶者暴力相談支援センター「ひらかたDV相談室」において、住民票の閲覧制限に係る証明など、各種証明を発行した件数	150	155	160	165	件	人権政策課	1. DV防止対策と被害者支援
各年度の実績		117	167			件	備考	
【施策指標の分析 R6】DVに関する各種証明発行件数は例年150件前後を推移しており、R6年度は若干減少した。引き続き、庁内関係課、転出先及び前住所地等の自治体住民基本台帳担当等と綿密に連携し、支援者の申し出に基づき証明書発行の対応を行う。								
【施策指標の分析 R7】DVに関する各種証明発行件数はR6年度は若干減少したものの例年150件前後を推移。引き続き、庁内関係課、転出先及び前住所地等の自治体住民基本台帳担当等と綿密に連携し、支援者の申し出に基づき証明書発行の対応を行う。								

施策シート【11_02】－ 具体的な取り組み

市長公室、健康福祉部、福祉事務所

施策名称	人権侵害への支援の充実
------	-------------

2. 障害者の虐待防止と相談支援

取り組みの内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	担当課
障害者虐待の通報・相談を受けて、被害者の保護や再発防止などの支援を実施。	・全ての通報等を対象にコア会議で対応方針を検討 ・支援の連携強化を目的に虐待防止関係機関会議を開催	継続	継続	継続	障害支援課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	備考
虐待対応は、問題が深刻化する前に早期に見し、支援を開始することが重要であるため、引き続き関係機関と連携しながら、迅速な対応を推進する。	・コア会議による検討を中心に、迅速な対応を図った。 ・虐待防止関係機関会議を開催し、連携の強化を図った。	・コア会議による検討を中心に、迅速な対応を図った。 ・12月に虐待防止関係機関会議を開催し、連携の強化を図った。			
年度ごとの達成状況	◎	◎			

指標名	指標の説明	R6	R7	R8	R9	単位	担当課	関連する取り組み等
障害者虐待に関する相談件数	「障害者虐待防止センター」における障害者虐待に関する相談件数	80	80	80	80	件	障害支援課	2. 障害者の虐待防止と相談支援
各年度の実績		99	90			件	備考	
【施策指標の分析 R6】 相談窓口の周知や関係機関と連携した対応の結果、定期的に通報が行われており、前年度（97件）とほぼ横ばいの相談実績で推移している。								
【施策指標の分析 R7】 相談窓口の周知や関係機関と連携した対応の結果、定期的に通報が行われており、前年度（99件）と同程度の相談実績で推移している。								
障害者虐待に関する相談の結果、解決・支援につながった割合	虐待認定の結果、解決、支援につながった割合	100	100	100	100	%	障害支援課	2. 障害者の虐待防止と相談支援
各年度の実績		100	100			%	備考	
【施策指標の分析 R6】 虐待認定事案など対応が求められるケースについては、関係機関との連携を図りながら、全ての事案において必要な支援を実施した。								
【施策指標の分析 R7】 虐待認定事案など対応が求められるケースについては、全ての事案において初動対応会議を開催し、関係機関との連携を図りながら、必要な支援を実施した。								

施策名称	人権侵害への支援の充実
------	-------------

3. 高齢者の虐待防止と相談支援

取り組みの内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	担当課
高齢者に対する虐待発生の予防や早期発見、必要な支援につなぐため、市や地域包括支援センターで高齢者虐待に関する相談を実施。	高齢者虐待に関する相談に迅速に対応	継続	継続	継続	健康福祉総合相談課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	備考
高齢者虐待に関する相談に対して、地域包括支援センターをはじめとした関係者と連携し、相談にあたった。	地域包括支援センターと協力し、ネットワーク会議を開催した。	引き続き、地域包括支援センターと協力し、ネットワーク会議を開催した。			
年度ごとの達成状況	◎	◎			

指標名	指標の説明	R6	R7	R8	R9	単位	担当課	関連する取り組み等
高齢者虐待に関する相談件数	高齢者虐待に関する市への相談件数	140	140	140	140	件	健康福祉総合相談課	3. 高齢者の虐待防止と相談支援
各年度の実績		119	170			件	備考	
【施策指標の分析 R6】 虐待の相談件数としては、横ばい傾向である。関係機関と連携しながら、虐待の相談に迅速に対応していく。								
【施策指標の分析 R7】 虐待の相談件数は、早期発見に向けた周知・啓発が進んだことにより増加している。今後も関係機関と連携して、虐待相談に迅速に対応していく。								
高齢者虐待に関する相談の結果、解決・支援につながった割合	市や地域包括支援センターが対応した高齢者虐待の相談に対して、適切な支援先につなげられた割合	100	100	100	100	%	健康福祉総合相談課	3. 高齢者の虐待防止と相談支援
各年度の実績		100	100			%	備考	
【施策指標の分析 R6】 高齢者の相談窓口として、地域包括支援センターと協力してネットワーク会議を開催し、虐待の早期発見、早期対応に向け取り組んだ。引き続き関係機関と連携し、虐待防止の取り組みとともに支援を行っていく。								
【施策指標の分析 R7】 高齢者の相談窓口として、地域包括支援センターと協力してネットワーク会議を開催し、虐待の早期発見、早期対応に向け取り組んだ。引き続き関係機関と連携し、虐待防止の取り組みとともに支援を行っていく。								

4. 取組満足度と関心・期待度・ニーズの4象限マトリクス分析

関心・期待度・ニーズが高い

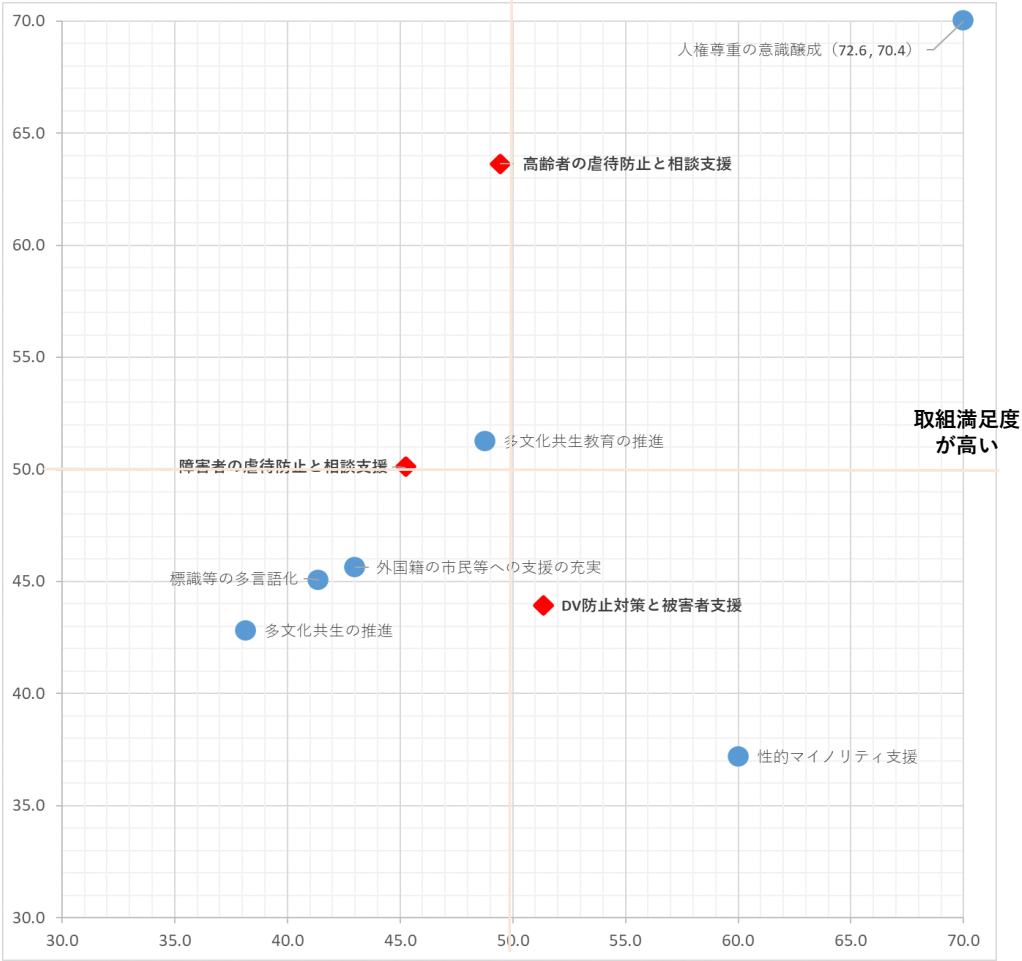
一人ひとりが人権を尊重
11_02 人権侵害への支援の充実

施策満足度		
満足	不満足	どちらとも いえない わからない
21.2%	12.7%	66.1%
「決め手となった取り組みはない」と 回答した人		
47.9%		

※回答数／全体数1,762

※満足の定義は、「感じている」「やや感
じている」を選択した人
不満足の定義は、「あまり感じていな
い」「感じていない」を選択した人

※各施策における取組満足度や関心・期待・
ニーズを分析するものであり、異なる施策
間での比較を行うものではありません。



目指すべき姿
(施策満足
度)『一人ひ
とりが人権を
尊重』に紐づ
く全取り組み
⇒青丸●

上記のうち施
策シート
『11_02 人
権侵害への支
援の充実』に
紐づく取り組
み⇒赤ダイア
◆

施策の分析

- ・「1. DV防止対策と被害者支援」の関心・期待度・ニーズは低いものの、取組満足度は平均的である。
- ・「2. 障害者の虐待防止と相談支援」の取組満足度、関心・期待度・ニーズともに平均的である。
- ・「3. 高齢者の虐待防止と相談支援」の関心・期待度・ニーズは高いものの、取組満足度は平均的である。

5. 評価を踏まえた今後の方向性

今後の方向性

- ・施策全体の方向性としては、配偶者等からの暴力（DV）や、高齢者、障害者などへの人権侵害に対し、事案が深刻化する前の早期発見が必要となることから、関係機関と連携しながら支援の充実を図っていく。
- ・市民意識調査の結果から、より市民の人権意識の醸成につながる取り組みの検討が必要である。

6. 施策評価員による評価【外部評価】

施策評価員による評価

- ・人権侵害の発見や事前の防止が求められている。受け身ではない見守り体制など、地域ぐるみの多様な主体による仕組みづくりが必要ではないか。
- ・人権相談について、従来からの電話や来所などの声を通した対応に加え、LINEによる相談やまずはAIに相談するなど、従来にはない方法がとられることも増えており、相談窓口の担当者には新たなスキルが必要になる。そうしたことを踏まえ、AIが誤情報を流すこともあることを周知することも必要ではないか。
- ・早期発見と関係機関への連携という方向性は妥当であり、虐待対応の全件支援接続の実績は評価できる。
- ・気づきの場として元気づくり会議など、地域内で民生委員・児童委員などからの情報を地域包括支援センターと共有しているが、ベースとなる自治会組織が弱体化している。地域連携のベースとなる、そうした組織に対する体制維持の取り組みも考える必要があるのではないか。

1. 施策の概要

施策シート【11_03】

市長公室、観光にぎわい部、総合教育部、学校教育部

施策名称		多文化共生社会の形成の支援			
総合計画体系	基本目標等	2.健やかに、生きがいを持って暮らせるまち			
	施策目標等	11.すべての人がお互いの人権を尊重しあうまち			
めざす姿（主観的満足度）		一人ひとりが人権を尊重し合っている			
概要		多様な文化を認め合えるよう、人権教育・啓発を図るとともに、外国籍の市民等にとっても、住みやすいまちづくりを行う。			
計画期間 中の 実施予定 時期	R6年度				
	1. 多文化共生の推進 2. 標識等の多言語化 3. 外国籍の市民等への支援の充実 4. 多文化共生教育の推進				
	R7年度				
	R8年度	1. 多文化共生の推進 ○一元的相談窓口を開設。入管庁の電話通訳に加え、デジタル機器を用いた通訳を導入。 2. 標識等の多言語化 ○標識、案内板の多言語化を段階的に具体化			
	R9年度				

2. 市民満足度、取り組み実績および施策指標の分析

市民満足度の分析

【満足度21.2%】

- ・年代別では、最も高いのが19歳以下で53.8%、最も低いのが70歳台で17.5%である。
- ・昨年度と比較すると全体では、9.7ポイント減少したものの、若者世代（24歳以下）では9.4ポイント上昇した。

取り組み実績および施策指標の分析

【取り組み実績】

- ・施策の進捗としては、すべての取り組みが計画通りに進めることができている。

【施策指標】

- ・「国際化関連講座受講者数」以外の指標は、すべて目標値を達成している。

3. 具体的な取り組みの進捗と施策指標の実績

施策シート【11_03】ー 具体的な取り組み

市長公室、観光にぎわい部、総合教育部、学校教育部

施策名称	多文化共生社会の形成の支援
------	---------------

1. 多文化共生の推進

取り組みの内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	担当課
- 外国人市民等のニーズを踏まえた「国際化施策に関する考え方」の取り組みの具体化及び推進。 「国際化施策に関する考え方」における取り組みの進捗管理。	- ニーズを踏まえた取り組みの具体化検討 - 現状把握	外国人市民等のニーズを踏まえた「国際化施策に関する考え方」の取り組みの推進	- 継続 「外国人相談コーナー」を開設。入管庁の電話通訳に加え、デジタル機器を用いた通訳を導入。	- 継続 - 窓口の運営を継続。他の相談メニューや手段についても検討する。	観光交流課、広聴相談課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	備考
- 外国人市民等のための相談窓口について具体化に向けた検討を進める。 - 外国人市民等のための相談窓口はR8年度の専用ブース設置に向けて、資料の収集やFAQの整備など、情報やノウハウの蓄積を進めていく必要がある。引き続き、外国人市民等のニーズをとらえた相談体制の充実に努める。	「国際化施策に関する考え方」の取り組みについて、庁内照会とヒアリングによる現状把握を行った。 - 外国人市民等の相談窓口について、他市状況や国制度の調査を行い、国際化施策検討委員会で協議した。	「国際化施策に関する考え方」の取り組みについて、庁内照会による現状把握を行った。 - 相談窓口の多言語による対応を試行的に実施			
年度ごとの達成状況	◎	◎			

施策シート【11_03】－ 施策指標

市長公室、観光にぎわい部、総合教育部、学校教育部

施策名称	多文化共生社会の形成の支援
------	---------------

指標名	指標の説明	R6	R7	R8	R9	単位	担当課	関連する取り組み等
国際化関連講座受講者数	市が主催する国際理解講座等、多文化共生、国際化推進のための講座・イベント参加者数	86	200	210	220	人	観光交流課	1. 多文化共生の推進
各年度の実績		166	116			人	備考	
【施策指標の分析 R6】 ベトナムをテーマにした国際理解講座について予定定員35名を上回る応募があり、受講人数を増やし対応した。								
【施策指標の分析 R7】 昨年度、上記の状況を受け目標値を拡大したが、今年度の講座が例年通りの定員となったため目標未達となった。								
外国人相談窓口満足度	枚方市品質マネジメントシステムに基づき「満足」「概ね満足」と回答した件数/アンケート回答者数×100	－	80	85	90	%	広聴相談課	1. 多文化共生の推進
各年度の実績		－	100			%	備考	
【施策指標の分析 R6】								
【施策指標の分析 R7】 指標は達成しているものの、当年度は試行実施におけるデータであり回答者数が少ないため、今後の利用者増加に備え、指標を維持できるよう努める。								

施策名称	多文化共生社会の形成の支援
------	---------------

2. 標識等の多言語化

取り組みの内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	担当課
外国籍の市民等に向けた標識、案内板の多言語化を推進。	・観光関係の案内板等の多言語化の実施（枚方宿） ・市域全体の案内板における多言語化に着手する候補選定など対応策の検討	・観光関係の案内板等多言語化の実施（枚方八景など） ・市域全体の案内板における多言語化の具体化に向けて進め方を整理	市域全体の案内板における多言語化の実施	継続	観光交流課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	備考
・観光交流課所管の案内板等について、引き続き、多言語化に取り組む。 ・引き続き、庁内各課に取り組みを促す。	・枚方宿周辺において、看板等の補修に合わせ、18カ所で多言語化を実施した。 ・国際化施策の考え方に基づき、庁内全課へ「公共施設等の都市施設の案内・サイン等の多言語化の推進」への取り組みを促した。	・枚方市内において、案内板の補修等に合わせ、10カ所で多言語化を実施した。 ・国際化施策の考え方に基づき、庁内全課へ「公共施設等の都市施設の案内・サイン等の多言語化の推進」への取り組みを促した。			
年度ごとの達成状況	◎	◎			

※関連指標なし

施策名称	多文化共生社会の形成の支援
------	---------------

3. 外国籍の市民等への支援の充実

取り組みの内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	担当課
①生活のうえで必要となるさまざまな情報を提供することを目的に、やさしい日本語を含む7か国語にて「外国人のための枚方生活ガイド」を発行。 ②生涯学習市民センターでは日常生活に困っている人を対象に日本語・多文化共生教室として「よみかき教室」を実施。	・現状把握 ・ニーズを踏まえた取り組みの具体化検討 ①継続 ②日常生活において、日本語の読み書きや会話に困っている方を対象に、日本語学習の場を提供する。地域に住むすべての人が、豊かに生き生きと暮らすことができる社会の実現を目指す	継続	継続	継続	観光交流課、教育政策課、文化生涯学習課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	備考
①ガイドの年度更新を行うとともに、外国人市民等のための相談窓口について具体化に向けた検討を進める。 ②「よみかき」教室の安定的な活動、教室運営が行われるように必要なスタッフの配置を行うとともに、スタッフのレベルアップを図るための研修を継続して実施する必要がある。 引き続き、学習者のニーズを踏まえた日本語学習の場の提供に努める。	①11月にガイドの年度更新版を発行した。外国人市民等の相談窓口について、他市状況や国制度の調査を行い、国際化施策検討委員会で協議した。 ②●生涯学習市民センター（5カ所）・生涯学習交流センターで実施。延べ参加者数2,166名 ●スタッフのレベルアップを目指した「スタッフ研修」を実施（参加者数42名（1回目：26名、2回目：16名）） ●「北河内識字・日本語交流会」（会場：交野市）へ参加（参加者数46名）	①外国人のための枚方生活ガイドを発行した。 ②●生涯学習市民センター（5カ所）・生涯学習交流センターで実施。延べ参加者数2,511名 ●スタッフのレベルアップを目指した「スタッフ研修」を実施（参加者数26名） ●「北河内識字・日本語交流会」（会場：枚方市）へ参加（参加者数87名）			
年度ごとの達成状況	◎	◎			

施策シート【11_03】－ 施策指標

市長公室、観光にぎわい部、総合教育部、学校教育部

施策名称	多文化共生社会の形成の支援
------	---------------

指標名	指標の説明	R6	R7	R8	R9	単位	担当課	関連する取り組み等
日本語・多文化共生教室「よみかき」の学習者の満足度	年度末に実施する学習者向けアンケートにおいて、「この教室で日本語を勉強してよかったですか」の項目で「よかった」と回答した学習者の割合	80	90	90	90	%	教育政策課、文化生涯学習課	3. 外国籍の市民等への支援の充実
各年度の実績		95	97			%	備考	
【施策指標の分析 R6】 教室への参加学習者のアンケートにおいて教室に参加して「よかった」という声を95%得るとともに、スタッフ研修参加者のアンケートにおいて80%以上の満足を得るなど、学習者、スタッフともに実施の成果があった。								
【施策指標の分析 R7】 教室への参加学習者のアンケートにおいて教室に参加して「よかった」という声を97%得るとともに、スタッフ研修参加者のアンケートにおいて参加者全員の満足を得るなど、学習者、スタッフともに実施の成果があった。								

施策シート【11_03】－ 具体的な取り組み

市長公室、観光にぎわい部、総合教育部、学校教育部

施策名称	多文化共生社会の形成の支援
------	---------------

4. 多文化共生教育の推進

取り組みの内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	担当課
小中学校における在日外国人教育・国際理解教育の推進を図るため、異文化理解のための学習会や授業研究を実施。	異文化理解のための学習会や授業研究を実施	継続	継続	継続	支援教育課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	備考
今後、学校現場の教員が多文化共生教育の研究の場に積極的に参画できる環境を醸成し、取り組みのさらなる推進を図る。	講演会（6月・9月）、学習会（1月）、冬のつどい（2月）などを実施した。	研究会・報告会（5月）講演会（9月）、学習会（1月）、秋のつどい（11月）などを実施した。			
年度ごとの達成状況	◎	◎			

指標名	指標の説明	R6	R7	R8	R9	単位	担当課	関連する取り組み等
国際理解教育に努めている学校数	学校教育計画に国際理解教育について掲載している学校数	63	63	63	63	校	支援教育課	4. 多文化共生教育の推進
各年度の実績		63	63			校	備考	
【施策指標の分析 R6】市立小・中学校全校で国際理解教育を学校教育計画に掲載し実施できている。今後、国際理解や多文化共生に係る客観的な施策指標を検討する。								
【施策指標の分析 R7】市立小・中学校全校で国際理解教育を学校教育計画に掲載し実施できている。施策指標については最終決定には至っていないため、来年度についても引き続き国際理解や多文化共生に係る客観的な施策指標の設定に向けて協議を進める。								

4. 取組満足度と関心・期待度・ニーズの4象限マトリクス分析

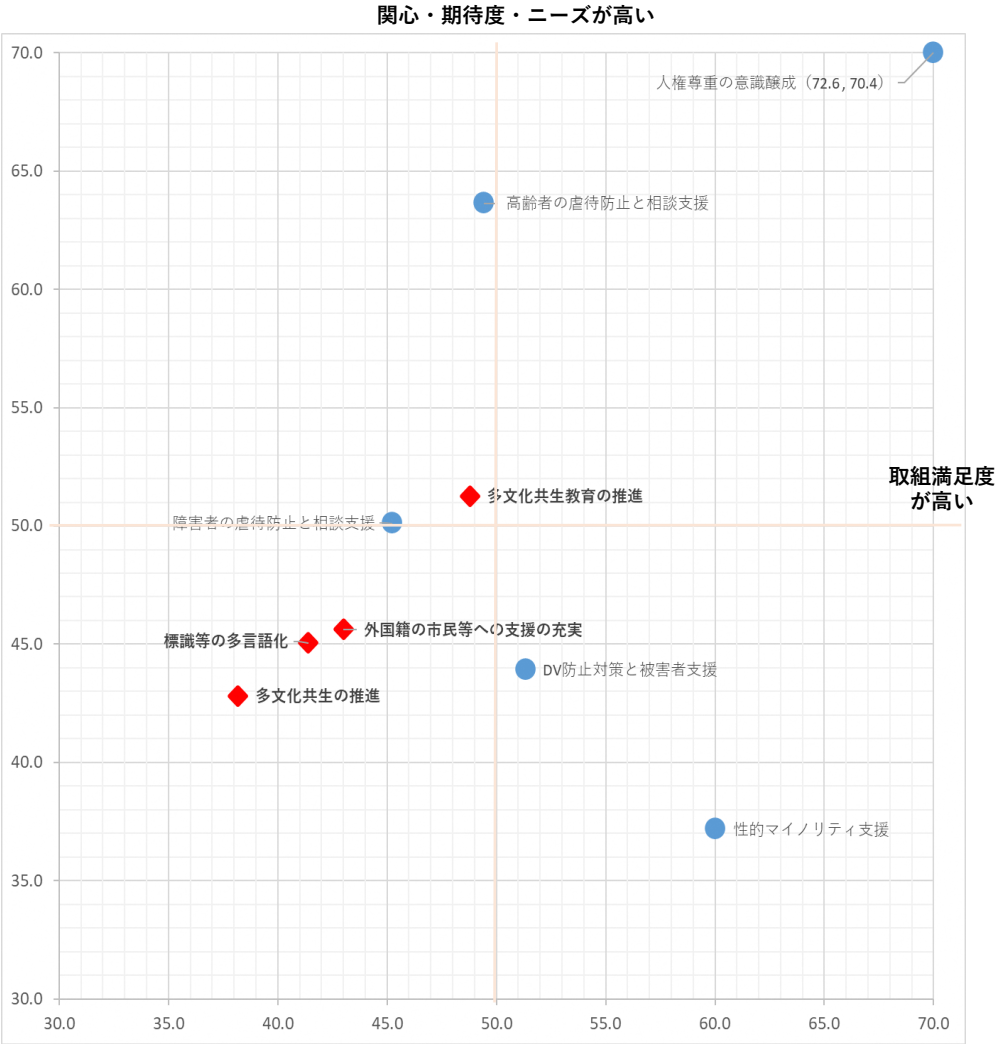
一人ひとりが人権を尊重
11_03 多文化共生社会の形成の
支援

施策満足度		
満足	不満足	どちらとも いえない わからない
21.2%	12.7%	66.1%
「決め手となった取り組みはない」と 回答した人		
47.9%		

※回答数／全体数1,762

※満足の定義は、「感じている」「やや感
じている」を選択した人で、
不満足の定義は、「あまり感じていな
い」「感じていない」を選択した人

※各施策における取組満足度や関心・期待・
ニーズを分析するものであり、異なる施策
間での比較を行うものではありません。



目指すべき姿
(施策満足
度)『一人ひ
とりが人権を
尊重』に紐づ
く全取り組み
⇒青丸●

上記のうち施
策シート
『11_03 多
文化共生社会
の形成の支援
』に紐づく取
り組み⇒赤ダ
イヤ◆

施策の分析

- ・「4. 多文化共生教育の推進」の関心・期待度・ニーズと取組満足度はともに平均的である。
- ・「2. 標識等の多言語化」、「3. 外国籍の市民等への支援の充実」の取組満足度は低いものの、関心・期待度・ニーズは平均的である。
- ・「1. 多文化共生の推進」の関心・期待度・ニーズと取組満足度はともに低い。

5. 評価を踏まえた今後の方向性

今後の方向性

- ・施策全体の方向性としては、増加している外国人市民等が安心して暮らし、地域社会において活躍できる環境構築に向けて、多言語相談窓口の開設や適切な行政サービスを提供するための施策を推進する。
- ・外国人市民等のための相談窓口設置に向けて、資料の収集やFAQの整備など、情報やノウハウの蓄積を進めていく。

1. 施策の概要

施策シート【12_01】

市長公室、総務部、観光にぎわい部

施策名称		女性活躍の推進			
総合計画体系	基本目標等	2.健やかに、生きがいを持って暮らせるまち			
	施策目標等	12.男女がともに参画し、個性を発揮できるまち			
めざす姿（主観的満足度）		男女共同参画社会が実現している			
概要		女性の職業生活などにおける活躍の推進を図るとともに、男女がともに仕事と生活を両立することができるよう、ワーク・ライフ・バランスの推進を図る。			
計画期間 中の 実施予定 時期	R6年度				
	1. 市役所男性職員の育児休暇の取得促進による女性が働きやすい環境の推進 2. 市役所女性職員の活躍推進 3. 女性のための相談支援 4. 男女共同参画の推進 5. 男性の育児休暇の取得、女性が働きやすい市内企業の応援				
	R7年度				
	R8年度	1. 市役所男性職員の育児休暇の取得促進による女性が働きやすい環境の推進 ○ 2週間以上の育児休業を取得した男性職員の割合100%			
	R9年度				

2. 市民満足度、取り組み実績および施策指標の分析

市民満足度の分析

【満足度17.7%】

- ・年代別では、最も高いのが19歳以下で46.2%、最も低いのが70歳台で14.7%である。
- ・昨年度と比較すると全体では、8.7ポイント減少したものの、若者世代（24歳以下）では2.4ポイント減少に留まっている。

取り組み実績および施策指標の分析

【取り組み実績】

- ・施策の進捗としては、概ね達成できている。

【施策指標】

- ・「男女共生フロア・ウィルでの相談件数」、「男女共同参画に関する講座等の参加者数」、「周知啓発を行った市内事業者数」、「くるみん・えるぼしの認定を受けた市内事業者数」については、目標を達成している。
- 「管理職に占める女性の割合」、「2週間以上の育児休業を取得した男性職員の割合」については、未達成だが、目標には近づいている。「男女共同参画の理解が深まった人の割合」は未達成である。

3. 具体的な取り組みの進捗と施策指標の実績

施策シート【12_01】－ 具体的な取り組み

市長公室、総務部、観光にぎわい部

施策名称	女性活躍の推進
------	---------

1. 市役所男性職員の育児休暇の取得促進による女性が働きやすい環境の推進

取り組みの内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	担当課
男性職員に対する育児に関する休暇・休業制度の全体的な周知。対象職員への育児参画の意義を含めた啓発を実施。	・幅広い年代へのアプローチとして研修時に育休の内容を盛り込む ・男性育休リーフレットのブラッシュアップ ・収入面の情報も含めた取得パターンの例示 ・課題解消につなげるための取得しない場合の理由聴取などの取り組みを推進	継続	継続	継続	職員課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	備考
令和8年度は、高い目標設定としていることから、取り組みの更なる推進を図っていく。	・新入職員研修を初めとする各職制への研修の場で周知・啓発を実施。 ・リーフレットを改訂し、収入面に関する情報を盛り込んだ取得パターンを例示するなど、内容を充実させるとともに、対象者が所属長と面談しながら計画的な休暇・休業の取得ができるような内容とした。	・各職制への研修の場で周知・啓発を実施。 ・育児休業を取得した男性職員との座談会を開催し、育児休業を取得して良かったことなど育休取得者のリアルな声を庁内報にまとめ、育休を取得するイメージができるように発信を行った。			
年度ごとの達成状況	◎	○			

施策シート【12_01】－ 施策指標

市長公室、総務部、観光にぎわい部

施策名称		女性活躍の推進						
指標名	指標の説明	R6	R7	R8	R9	単位	担当課	関連する取り組み等
2週間以上の育児休業を取得した男性職員の割合	当該年度中に新たに連続2週間以上の育児休業を取得した市役所男性職員数／当該年度中に子が出生した市役所男性職員数	60	85	100	100	%	職員課	1. 市役所男性職員の育児休暇の取得促進による女性が働きやすい環境の推進
各年度の実績		74	76.9			%	備考	
【施策指標の分析 R6】 これまでからの取り組みにより、少しずつ職員の意識変容が進んでいると感じており、取得率は年々向上している。令和7年度以降の目標も達成できるよう、今後も取り組みを推進していく。								
【施策指標の分析 R7】 育児休業に関する情報を様々な角度から継続して発信してきたことで、職員の意識も変わりはじめ、取得率は年々向上している。令和8年度以降の目標も達成できるよう、今後も取り組みを推進していく。								

施策シート【12_01】ー 具体的な取り組み

市長公室、総務部、観光にぎわい部

施策名称	女性活躍の推進
------	---------

2. 市役所女性職員の活躍推進

取り組みの内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	担当課
管理職に占める女性職員比率について、30%を目指し、女性職員のさらなる活躍の推進を図り、女性職員のキャリア形成を促進。 管理職の魅力ややりがいアピールし、キャリアアップへの不安解消など、多くの女性職員が昇任意欲を持てるような取り組みを実施。	・キャリアデザイン研修の実施 ・女性管理職のロールモデルの提示等を行う	継続	継続	継続	人事課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	備考
幅広い年齢層の職員を採用していることから、より早期から男女問わずキャリアを考える機会を設けるため、新入職員及び主任2年目にキャリアデザイン研修を実施する。 また、女性管理職の生の声を聴くことで、管理職員の魅力ややりがいを知るとともに、キャリアアップへの不安解消を図るため、引き続きロールモデルの掲示や座談会を実施するとともに、すでに管理職となった女性職員が不安を解消できるような相談体制を整備していく。	・入職10年目または主任2年目職員を対象に、1月にキャリアデザイン研修を実施した。 ・女性管理職のロールモデルとして、インタビュー記事をグループウェアの掲示板にて掲載した。 ・新任主査等の女性職員を対象に、女性管理職との座談会を実施した。	・主任2年目職員を対象に、1月にキャリアデザイン研修を実施した。 ・役職定年となった元部長級職員が女性活躍アドバイザーに就任し、女性管理職のロールモデルとして、インタビュー記事を庁内ネットワークに掲示した。 ・新任主査等の女性職員を対象に、1月に女性管理職との座談会を実施した。			
年度ごとの達成状況	○	○			

施策シート【12_01】－ 施策指標

市長公室、総務部、観光にぎわい部

施策名称	女性活躍の推進							
指標名	指標の説明	R6	R7	R8	R9	単位	担当課	関連する取り組み等
管理職に占める女性の割合	市役所における女性管理職／全管理職	30	30	30	35	%	人事課	2. 市役所女性職員の活躍推進
各年度の実績		28.1	29.4			%	備考	
【施策指標の分析 R6】 管理職員の魅力ややりがいを知ってもらうため、女性管理職のロールモデルを紹介したほか、キャリア・アップの不安解消を図るため、女性管理職との座談会を実施した。今後も女性職員のさらなる活躍の推進のための取り組みを進めていく。								
【施策指標の分析 R7】 管理職員の魅力ややりがいを知ってもらうため、女性管理職のロールモデルを紹介したほか、キャリア・アップの不安解消を図るため、女性管理職との座談会を引き続き実施し、目標達成には至らなかったものの、前年度対比で1.3ポイント上昇した。今後も女性職員のさらなる活躍の推進のための取り組みを進めていく。								

施策シート【12_01】－ 具体的な取り組み

市長公室、総務部、観光にぎわい部

施策名称	女性活躍の推進
------	---------

3. 女性のための相談支援

取り組みの内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	担当課
「男女共生フロア・ウィル」で女性・男性及びLGBTQなど、性別に係る困りごとに関する相談を実施。	・女性のための面接・電話・法律相談 ・男性のための電話相談 ・LGBTQ+相談（電話・オンライン（チャット））	継続	継続	継続	人権政策課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	備考
各種相談について、今後も実績を注視しながら、相談ニーズに応じた事業展開を図っていく。また、相談機関相互の連携を密にとっていく必要がある。	男女共生フロア・ウィルにおいて、各種相談を実施した。また、他部署の相談機関からの紹介による来所が増え、相談機関相互の連携が密になった。	男女共生フロア・ウィルにおいて、各種相談を実施した。また、他部署の相談機関からの紹介による来所が増え、相談機関相互の連携が密になった。			
年度ごとの達成状況	○	○			

指標名	指標の説明	R6	R7	R8	R9	単位	担当課	関連する取り組み等
男女共生フロア・ウィルでの相談件数	男女共生フロア・ウィルの相談者数（電話・来所）	41	55	1020	1030	件	人権政策課	3. 女性のための相談支援
各年度の実績		—	995			件	備考	
【施策指標の分析 R7】ジェンダーに関わる相談、困難な問題を抱える女性の相談を電話および来所に対応し、相談ニーズに応じて関係機関との連携を図った。相談窓口として周知し、今後も取り組みを進める。							R6年度までの目標値は直営分のみ。 R7年度以降の実績値、R8年度以降の目標値は委託分も含む。	

施策シート【12_01】－ 具体的な取り組み

市長公室、総務部、観光にぎわい部

施策名称	女性活躍の推進
------	---------

4. 男女共同参画の推進

取り組みの内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	担当課
市民の男女共同参画意識の向上に向け、男女共同参画に関する啓発講座等を実施。 第3次枚方市男女共同参画計画に基づき、男女共同参画を推進。	・市民を対象とした男女共同参画に関する講座やイベントを開催 ・本市の審議会の女性委員登用を促進	継続	継続	継続	人権政策課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	備考
・男女共同参画に関する様々なテーマで幅広い市民への啓発を行っていく。 ・本市の全ての審議会の女性委員比率35%を目指すとともに、35%を達成することが困難な状況改善に向けて検討する。	・男女共同参画に関する様々なテーマで幅広い市民への啓発を行った。 ・本市の全ての審議会における女性委員の比率を35%以上を目指し登用を促進した。	・男女共同参画に関する様々なテーマで幅広い市民への啓発を行った。 ・本市の全ての審議会における女性委員の比率を35%以上を目指し登用を促進した。			
年度ごとの達成状況	○	○			

施策名称	女性活躍の推進
------	---------

指標名	指標の説明	R6	R7	R8	R9	単位	担当課	関連する取り組み等
男女共同参画の理解が深まった人の割合	男女共生フロア・ウィルの講座やイベントに参加した人のうち、アンケートで男女共同参画の理解が深まったと回答した人数／アンケート回答者数	95	95	95	95	%	人権政策課	4. 男女共同参画の推進
各年度の実績		91	89.3			%	備考	
【施策指標の分析 R6】 男女共同参画に関する講座全般において、男女共同参画の理解が深まったとの回答率が高いため、引き続き様々なテーマで幅広い市民への啓発を行っていく。								
【施策指標の分析 R7】 男女共同参画に関する講座全般において、男女共同参画の理解が深まったとの回答率が高いため、引き続き様々なテーマで幅広い市民への啓発を行っていく。								
男女共同参画に関する講座等の参加者数	男女共生フロア・ウィルで実施する講座等の参加者数	594	730	1,300	1,300	人	人権政策課	4. 男女共同参画の推進
各年度の実績		722	1,101			人	備考	
【施策指標の分析 R6】 男女共同参画に関する講座全般において、一定の参加があり、特に毎年実施の週間事業、映画上映会において多数の参加者が見られる。引き続き様々なテーマで幅広い市民への啓発を行っていく。								
【施策指標の分析 R7】 男女共同参画に関する講座全般において、一定の参加があり、特に毎年実施の週間事業、映画上映会において多数の参加者が見られる。引き続き様々なテーマで幅広い市民への啓発を行っていく。								
審議会等への女性委員登用率	女性委員比率が35%を達成している審議会等／全審議会等	60	62	63	64	%	人権政策課	4. 男女共同参画の推進
各年度の実績		55.6	59			%	備考	
【施策指標の分析 R6】 女性委員が35%を満たさない理由として、「充て職に限らず関係団体から推薦のあった委員が男性」、「審議事項の継続性を確保するため、女性委員比率に達成していない場合であっても委員を変更しない」、「依頼分野に女性が少ない」が多く、社会的に女性の長や役職が少ない事や推薦をもらう団体内に女性が少ないことが関係している。								
【施策指標の分析 R7】 全附属機関等での女性員比率35%達成に向け、令和8年（2026年）1月以降の委員選任手続きより、関係機関や団体の長を充て職としない、ドーンセンター人材情報提供サービスの利用、審議の継続性を理由とする更新は原則1回限りといった取り組みが開始されたことで比率向上を目指す。								

施策シート【12_01】－ 具体的な取り組み

市長公室、総務部、観光にぎわい部

施策名称	女性活躍の推進
------	---------

5. 男性の育児休暇の取得、女性が働きやすい市内企業の応援

取り組みの内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	担当課
市内事業者の労働環境改善に向け、国・府と連携して啓発を実施。	・国制度の認定を受けた市内事業者を取材し、取組事例などをHPやSNSで発信して啓発 ・市内事業者を対象としたセミナー等を開催	継続	継続	継続	商工振興課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	備考
市内事業者の労働環境改善に向けて、くるみん・えるぼし認定等の取得や各種相談窓口など、周知や普及啓発を行う必要がある。	・誰もが働きやすい職場づくりのための関連情報を、市ホームページで6件掲載して事業者に周知した。 ・周知方法を工夫し、想定より多くの市内事業者に周知することができた。(1,216件) ・くるみん認定を受けた市内事業者を1社取材し、取組事例をHPやSNSで発信した。	・誰もが働きやすい職場づくりのための関連情報を、市ホームページに6件、広報ひらかたに1件掲載し、事業者に広く周知した。 ・地域経済動向調査や事業者向けイベント時に合わせて周知することで、個別の事業者に周知することができた。(1,999件) ・くるみん認定を受けた市内事業者を1社取材し、取組事例をHPやSNSで発信した。			
年度ごとの達成状況	◎	◎			

施策シート【12_01】－ 施策指標

市長公室、総務部、観光にぎわい部

施策名称	女性活躍の推進
------	---------

指標名	指標の説明	R6	R7	R8	R9	単位	担当課	関連する取り組み等
周知啓発を行った市内事業者数	セミナー等を通して、直接周知啓発を行った市内事業者数	600	1,220	1,240	1,260	件	商工振興課	5. 男性の育児休暇の取得、女性が働きやすい市内企業の応援
各年度の実績		1,216	1,999			件	備考	
【施策指標の分析 R6】 市内事業者の労働環境改善に向けた取り組みを推進するため、市内事業者に対し啓発活動を行う。								
【施策指標の分析 R7】 市内事業者に対し、地域経済動向調査や事業者向けイベント時に合わせて周知することで、目標値を達成する周知をすることができた。今後も目標達成に向けて周知啓発活動に取り組んでいく。								
くるみん・えるぼしの認定を受けた市内事業者数	くるみん・えるぼしの新たな認定又は更新の認定を受けた市内事業者数	－	1	1	1	件	商工振興課	5. 男性の育児休暇の取得、女性が働きやすい市内企業の応援
各年度の実績		－	1			件	備考	
【施策指標の分析 R6】 －								
【施策指標の分析 R7】 枚方市内の1事業者がくるみん認定を新たに取得した。今後も目標達成に向けて周知啓発活動に取り組んでいく。								

4. 取組満足度と関心・期待度・ニーズの4象限マトリクス分析

関心・期待度・ニーズが高い

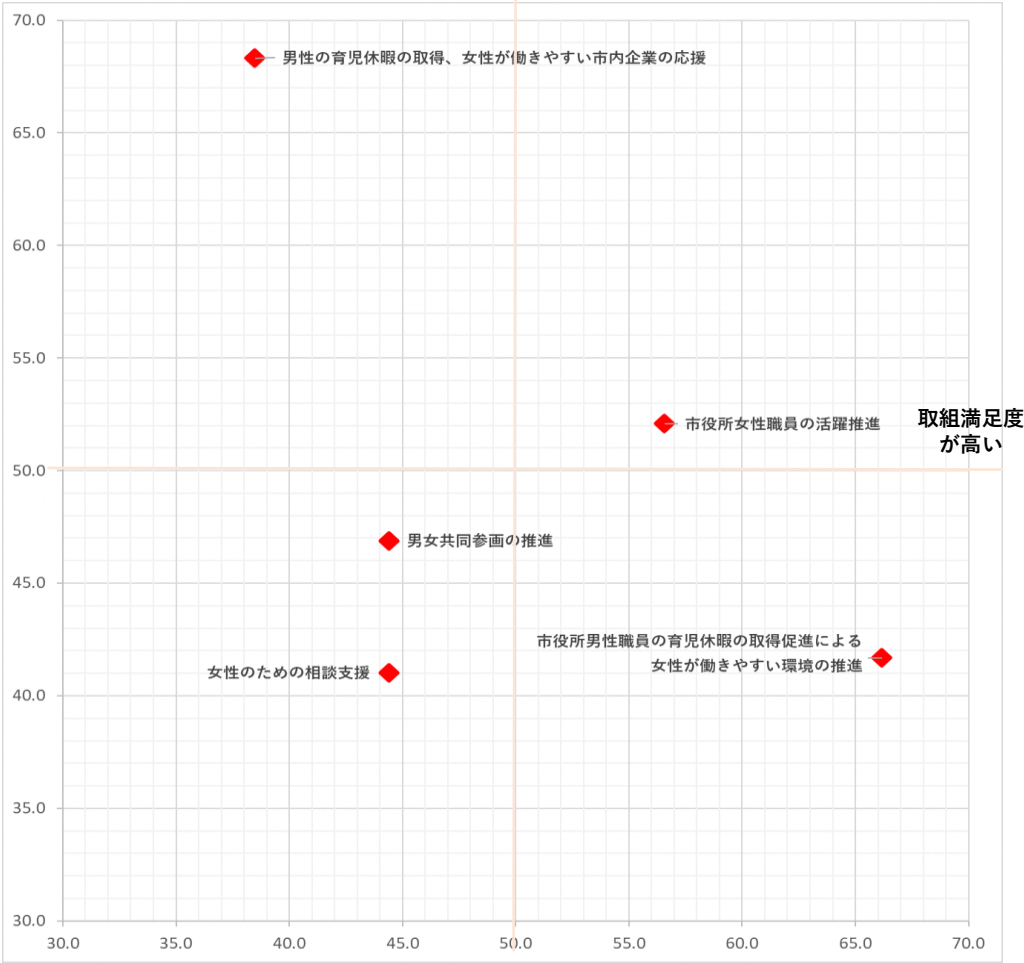
男女共同参画社会が実現している
12_01 女性活躍の推進

施策満足度		
満足	不満足	どちらとも いえない わからない
17.7%	15.9%	66.5%
「決め手となった取り組みはない」と 回答した人		
53.4%		

※回答数／全体数1,762

※満足の定義は、「感じている」「やや感じている」を選択した人
不満足の定義は、「あまり感じていない」「感じていない」を選択した人

※各施策における取組満足度や関心・期待・ニーズを分析するものであり、異なる施策間での比較を行うものではありません。



目指すべき姿
(施策満足度)『男女共同参画社会が実現している』に紐づく全取り組み⇒青丸●

上記のうち施策シート『12_01 女性活躍の推進』に紐づく取り組み⇒赤ダイヤ◆

施策の分析

- ・「1. 市役所男性職員の育児休暇の取得促進による女性が働きやすい環境の推進」については、満足度が高いが、関心・期待度・ニーズが低い。
- ・「2. 市役所女性職員の活躍推進」の取組満足度は高く、関心・期待度・ニーズは平均的である。
- ・「4. 男女共同参画の推進」の関心・期待度・ニーズは平均的であるものの、取組満足度は低い。
- ・「5. 男性の育児休暇の取得、女性が働きやすい市内企業の応援」については、関心・期待度・ニーズが高く、満足の決め手としても一定数選ばれているが、他の取組に比べて相対的に取組満足度が低い。
- ・「3. 女性のための相談支援」の取組満足度、関心・期待度・ニーズはともに低い。

5. 評価を踏まえた今後の方向性

今後の方向性

- ・施策全体の方向性としては、女性の活躍の推進を図るとともに、男女がともに仕事と生活を両立することができるよう、ワーク・ライフ・バランスの推進を図っていく。また、男女共同参画の阻害要因であるDVの防止に向けた啓発事業に取り組む。
- ・困難な問題を抱える女性からの相談について、福祉の関係機関等と連携し、必要な支援の取り組みを進める。
- ・「5. 男性の育児休暇の取得、女性が働きやすい市内企業の応援」については、くるみん・えるぼし認定等の取得に向けた後押しや、各種相談窓口の案内など、市内事業者の労働環境改善に向けた取組の周知・啓発を行う必要がある。

6. 施策評価員による評価【外部評価】

施策評価員による評価

- ・男女共同参画については、枚方市の都市特性を踏まえた、住宅都市、消費都市としての性質に応じた共同参画のあり方になっていないところがあると考ええる。枚方らしさを発揮するという観点から共同参画の目標や施策の上乗せを考えるべきではないか。
- ・性別に関係なく、職員が育児休業を取得することで、他の職員への業務負担増加になっていないかなど、業務の管理を徹底する必要があるのではないかな。属人的な業務のあり方になっていないか、代替職員雇用など、職場環境を整えることが、育児休業のさらなる取得につながるのではないかな。
- ・市で取り組むキャリアデザイン研修体系を、民間企業でも受けられるような環境や仕組みが整うことを期待する。
- ・「どちらともいえない・わからない」「決め手となった取り組みはない」がともに上位であり、施策が市民に届いていないのではないかな。満足度低下の要因を分析すべきではないかな。
- ・休暇が取りにくい背景には人手不足がある。特に中小企業における採用が難しい環境にあるため、女性活躍に積極的に取り組んでいる企業のイメージアップになるような取り組みを行ってはどうかな。
- ・仕事と育児の両立や女性活躍推進という面で優良と評価されるくるみん・えるぼし認定事業者が市内で増加することは社会経済の発展にとっても必要であると考ええる。また、認定事業者は各種補助金審査時に加点措置を受けることもできるため、引き続き認定事業者増加に向けた取り組みを要望する。

1. 施策の概要

施策シート【13_01】

市長公室

施策名称		平和意識の向上			
総合計画体系	基本目標等	2.健やかに、生きがいを持って暮らせるまち			
	施策目標等	13.平和の大切さを後世に伝えるまち			
めざす姿（主観的満足度）		平和の大切さが継承されている			
概要		平和な社会の実現に向けて、平和意識の向上を図り、戦争の悲惨さを後世に伝える取り組みを進める。			
計画期間 中の 実施予定 時期	R6年度				
		1. 平和の意識醸成			
	R7年度				
	R8年度				
	R9年度				

2. 市民満足度、取り組み実績および施策指標の分析

市民満足度の分析

【満足度40.3%】

- ・年代別では、最も高いのが20歳台で56.5%、最も低いのが19歳以下で30.8%である。
- ・昨年度と比較すると全体では、12.3ポイント減少したものの、子育て世代（25～44歳）では4.6ポイントの減少に留まった。

取り組み実績および施策指標の分析

【取り組み実績】

- ・施策の進捗としては、計画通りに進めることができている。

【施策指標】

- ・「平和に関するイベントの参加者数」は目標値を達成している。「平和啓発事業に参加した人の満足度」は未達成であり、引き続き満足度向上に向けた取り組みが求められる。

3. 具体的な取り組みの進捗と施策指標の実績

施策シート【13_01】－ 具体的な取り組み

市長公室

施策名称	平和意識の向上
------	---------

1. 平和の意識醸成

取り組みの内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	担当課
戦争の悲惨さや平和の尊さを次世代の子どもたちに伝え、市民に平和について考える機会をより効果的に実施するため、次世代を担う青少年をターゲットとした内容や広報の見直しを実施。	企画（参画してくれる若者の募集、勉強会・意見交換・とりまとめ）	事業実施	既存事業に継承	継続	人権政策課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	備考
ターゲットとしている青少年の参加割合をさらに増やすため、広島や長崎など先進的な取り組みも参考に、若い世代の参加意欲が高まるような平和啓発事業の内容や広報などについてアップデートしていく必要がある。	・10月と12月に、中学生と「枚方から平和を発信できるイベントを開催したい」をテーマに学習する機会を持った。 ・今まで戦争や平和について、身近に感じていなかった若い世代から「出来ることから始める」など前向きな感想が寄せられた。	・講師と小中学生が平和について聴衆の前で意見交換する場を実施した。 ・上記については、枚方の平和の取組等についての事前勉強会を行った。 ・SNS等で話題の上がった若い世代向けの映画会を開催した。 ・平和の燈火において、大学生等からなる実行委員と、平和パネル展の作成など平和に向けた催しを行った。			
年度ごとの達成状況	◎	◎			

施策シート【13_01】－ 施策指標

市長公室

施策名称	平和意識の向上
------	---------

指標名	指標の説明	R6	R7	R8	R9	単位	担当課	関連する取り組み等
平和啓発事業に参加した人の満足度	平和啓発事業の参加者へのアンケート調査で、満足した人の割合。	85	93	94	95	%	人権政策課	1. 平和の意識醸成
各年度の実績		92	90.3			%	備考	
【施策指標の分析 R6】 実施したさまざまな平和啓発事業全般において、満足したと回答した人の割合が高いため、今後も引き続き、事業内容の精査に努め平和啓発を行っていく。								
【施策指標の分析 R7】 実施したさまざまな平和啓発事業全般において、満足したと回答した人の割合が高いため、今後も引き続き、事業内容の精査に努めより多くの方に平和啓発を行っていく。								
平和に関するイベントの参加者数	3月1日の「枚方市平和の日」などに開催する平和に関するイベントの参加者数	2,500	2,700	3,300	3,300	人	人権政策課	1. 平和の意識醸成
各年度の実績		2,665	3,882			人	備考	
【施策指標の分析 R6】 実施したさまざまな平和啓発事業全般において、一定の参加者があり、定員を超える申し込みのあった事業もあった。今後も引き続き事業内容の精査に努め平和啓発を行っていく。								
【施策指標の分析 R7】 実施したさまざまな平和啓発事業全般において、多くの参加者があり、定員を超える申し込みの事業もあった。特に令和7年度は終戦80年平和事業を行ったことから参加者数は大きく伸長した。今後も引き続き事業内容の精査に努め平和啓発を行っていく。								

4. 取組満足度と関心・期待度・ニーズの4象限マトリクス分析

関心・期待度・ニーズが高い

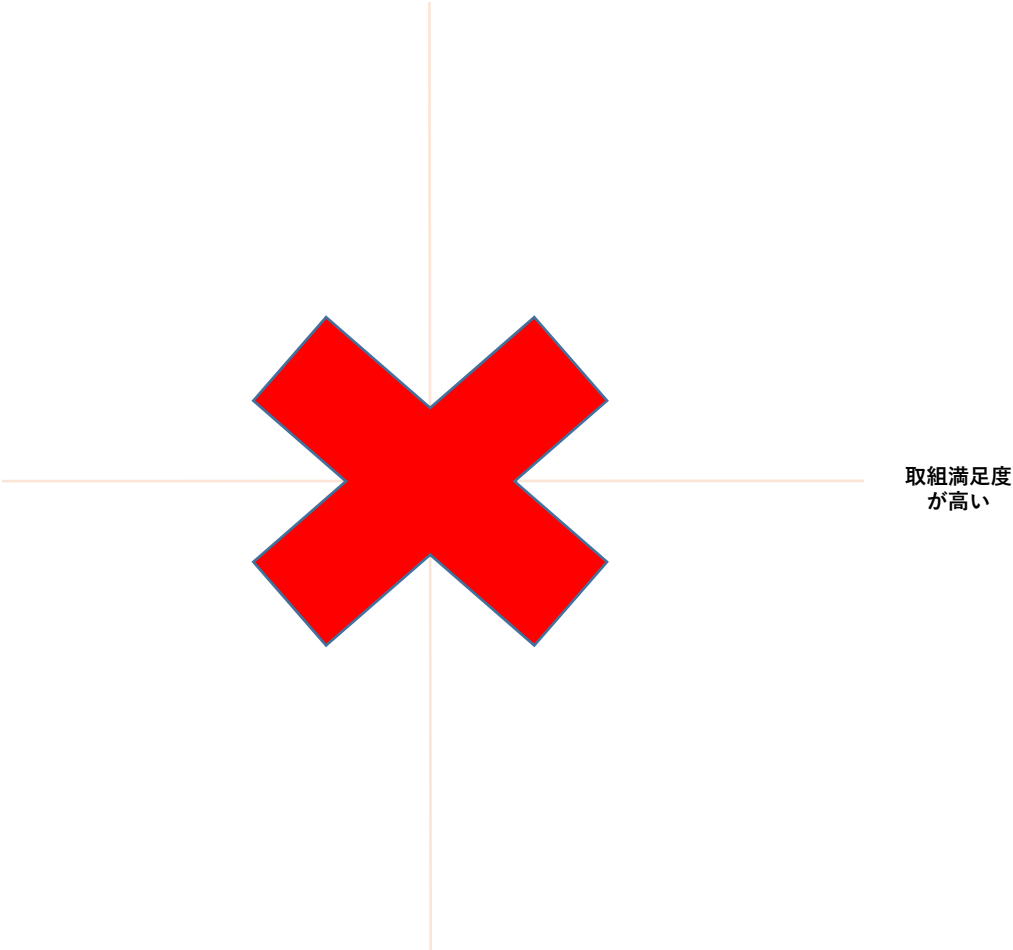
平和の大切さが継承されている
13_01 平和意識の向上

施策満足度		
満足	不満足	どちらとも いえない わからない
40.3%	11.3%	48.4%
「決め手となった取り組みはない」と 回答した人		
53.0%		

※回答数／全体数1,762

※満足の定義は、「感じている」「やや感
じている」を選択した人で、
不満足の定義は、「あまり感じていな
い」「感じていない」を選択した人

※各施策における取組満足度や関心・期待・
ニーズを分析するものであり、異なる施策
間での比較を行うものではありません。



施策の分析

※取り組みが1つのためマトリクス分析不可
・平和の意識醸成

5. 評価を踏まえた今後の方向性

今後の方向性

- ・施策全体の方向性として、引き続き平和意識の向上を図る取り組みを進める。
- ・恒久平和に向けて、非核平和宣言都市として、「枚方市平和の日」の取り組みを中心に、平和の尊さと戦争の悲惨さについて若者を始め広く市民に伝えられるよう取り組みを進める。
- ・さまざまな平和啓発事業において、引き続き周知・啓発を行い、イベントへの参加者の増加を目指す。